

[ 連絡先 ]

国土交通省港湾局計画課企画調査室

石原、吉田（内線 4 6 3 4 3）

（直通）03 - 5 2 5 3 - 8 6 7 0

（代表）03 - 5 2 5 3 - 8 1 1 1

平成 1 6 年 3 月 1 9 日

平成 1 5 年度全国輸出入コンテナ貨物流動調査結果（速報）について

1 . 概要

国土交通省港湾局では、我が国で発生消費される国際海上コンテナの全国流動を詳細に把握するため、全国輸出入コンテナ貨物流動調査を実施しています。

今般、平成 1 5 年 1 0 月に実施した調査結果（速報値）がまとまりました。

2 . 調査内容

我が国を生産地・消費地とする国際海上コンテナ貨物について、輸出の場合は国内の生産地から海外の仕向国までの、輸入の場合は海外の原産国から国内の消費地までの流動実態を把握する調査です。調査実施期間は、平成 1 5 年 1 0 月 1 日から 3 1 日までの 1 ヶ月間であり、上記期間中に通関申告が行われる海上コンテナ貨物が調査対象です。

3 . 調査結果の主なポイント

～ 距離帯別生産地・消費地分布の変化～

【輸出】国内の生産地から船積港までの距離帯別にコンテナ貨物量をみると、40 k m 未満の比率が 44%、100 k m 未満の比率が 75%、200 k m 未満の比率が 87% となっています。

前回調査と比較すると、とりわけ 40 k m 未満の貨物の比率拡大（11 ポイント）が顕著となっています。以上のことから、輸出コンテナ貨物の国内における平均輸送距離は 106 k m から 92 k m に減少（ 13% ） しています。

【輸入】船卸港から国内の消費地までの距離帯別にコンテナ貨物量をみると、40 k m 未満の比率が 56%、100 k m 未満の比率が 82%、200 k m 未満の比率が 93% となっており、輸出に比べ、近距離輸送の貨物の比率が大きくなっています。

前回調査と比較すると、輸出ほどではないが近距離輸送の貨物の比率が拡大（40 k m 未満：2.7 ポイント、100 k m 未満：2.7 ポイント）しています。以上のことから、輸入コンテナ貨物の国内における平均輸送距離は 76 k m から 68 k m に減少（ 10% ） しています。

以上のことから、前回調査と比較して、国内の生産地・消費地から近い港湾が選択されていることが伺えます。

～ 日本を発着するコンテナ貨物の直送率の低下～

アジアの主要 8 港で積み替え（トランシップ）が行われず、海外の仕出国又は仕向国から直接日本の港湾に輸出入される貨物（直送貨物）が全体貨物量に占める割合は大きく減少傾向にあります。（対前回（平成 1 0 年）比 輸出入計： 10.1 ポイント、輸出： 11.2 ポイント、輸入： 9 ポイント）。

なお、本調査の詳細については別添資料もご参照下さい。

以上

平成 1 5 年度

全国輸出入コンテナ貨物流動調査

調査結果（速報値）

国土交通省港湾局

# 目 次

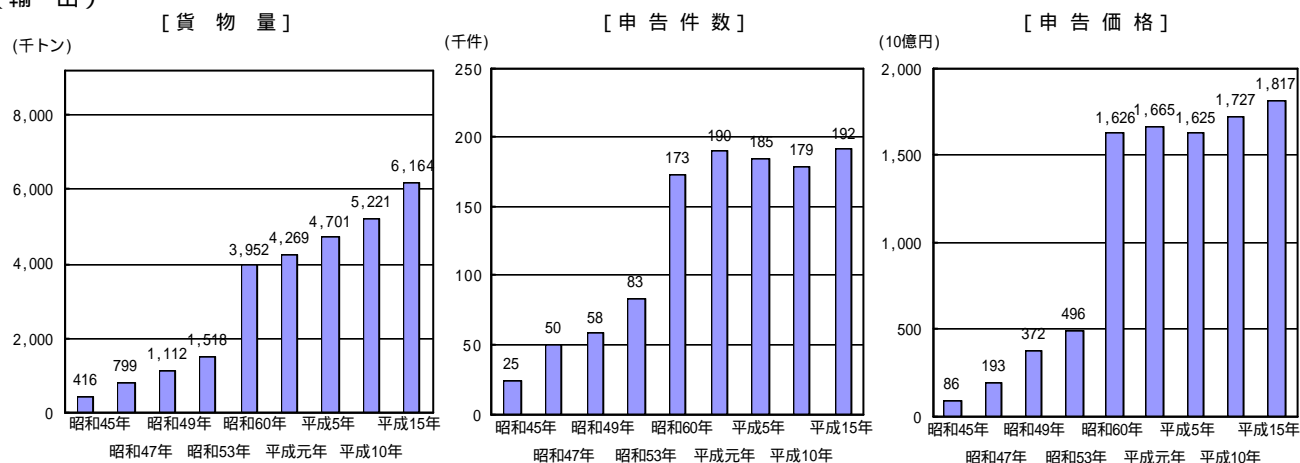
1 . コンテナ貨物量、申告件数、申告価格 ……	1
2 . 調査の捕捉率 ……	2
3 . コンテナ貨物の生産地、消費地 ……	3
4 . コンテナ貨物の流動状況—その1 - ……	6
5 . コンテナ貨物の流動状況—その2 - ……	11
6 . 距離帯別生産地、消費地分布 ……	13
7 . コンテナ貨物の主な輸送手段 ……	14
8 . 税関別申告状況 ……	15
9 . 輸出入申告時の蔵置場所 ……	16
10 . 申告時の貨物の状態 ……	17
11 . コンテナ貨物の詰め施設、取出施設 ……	18
12 . 港頭地区における詰め、取出の状況 ……	22
13 . コンテナ貨物の船積、船卸状況 ……	24
14 . 航路別にみたコンテナ貨物 ……	25
15 . 非直送率（日本発着のコンテナ貨物のうち アジア主要8港で積替輸送される比率） ……	27
参考1 . コンテナ貨物の仕向地、仕出地 ……	34
参考2 . 品目別にみたコンテナ貨物 ……	38

## 1. コンテナ貨物量、申告件数、申告価格

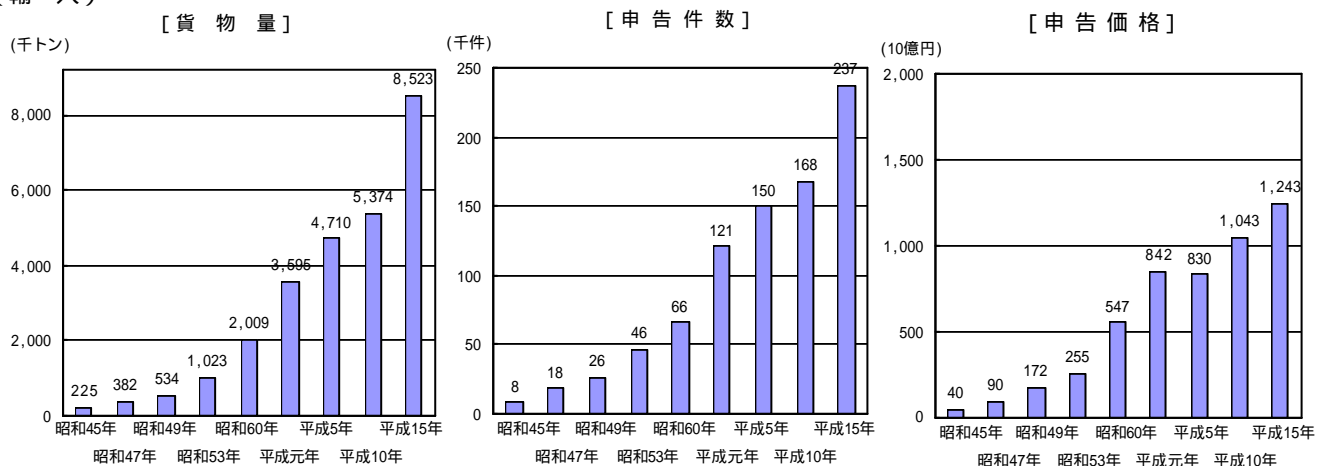
- ・輸出コンテナの貨物量は6,164千トン、申告件数は192千件、申告価格は1兆8,171億円。
- ・申告1件当たりの貨物量は32.2トン、申告1件当たりの申告価格は949万円、トン当たりの申告価格は29.5万円。(前回調査：各々29.2トン、966万円、33.1万円)
- ・輸入コンテナの貨物量は8,523千トン、申告件数は237千件、申告価格は1兆2,429億円。
- ・申告1件当たりの貨物量は35.9トン、申告1件当たりの申告価格は524万円、トン当たり申告価格は14.6万円。(前回調査：各々32.1トン、622万円、14.6万円)
- ・輸出に対する輸入の比率は、貨物量1.38(前回調査1.03)、申告価格0.68(同0.60)であり、いずれも輸入のウェイトが拡大。

図1. コンテナ貨物量、申告件数、申告価格の推移

### (輸出)



### (輸入)



調査期間

45年調査：昭和45年10月21日～11月20日  
 47年調査：昭和47年10月21日～11月20日  
 49年調査：昭和49年10月21日～11月20日  
 53年調査：昭和53年10月1日～10月31日  
 60年調査：昭和60年10月1日～10月31日

元年調査：平成元年10月1日～10月31日  
 5年調査：平成5年11月1日～11月30日  
 10年調査：平成10年10月1日～10月31日  
 15年調査：平成15年10月1日～10月31日

## 2. 調査の捕捉率

- ・調査期間中（平成15年10月）の全コンテナ貿易額（輸出21,110億円、輸入15,594億円：財務省貿易統計より）に対する調査データ（輸出18,171億円、輸入12,429億円）の捕捉率は、83.4%（輸出：86.1%、輸入：79.7%）

表1 仕向国・仕出国別にみた申告価格の捕捉率

単位：百万円

輸 出				輸 入			
仕向国	コンテナ調査 金額(A)	貿易統計 金額(B)	捕捉率 (A / B)	仕出国	コンテナ調査 金額(A)	貿易統計 金額(B)	捕捉率 (A / B)
アメリカ	453,068	512,508	88.4%	中国	476,865	601,948	79.2%
中国	371,779	441,621	84.2%	アメリカ	173,479	207,256	83.7%
台湾	136,274	164,643	82.8%	タイ	71,742	85,913	83.5%
韓国	94,524	110,849	85.3%	韓国	68,210	85,691	79.6%
タイ	90,777	103,085	88.1%	インドネシア	45,365	53,008	85.6%
オランダ	63,723	81,112	78.6%	台湾	41,841	52,970	79.0%
イギリス	62,275	67,339	92.5%	ドイツ	36,924	48,455	76.2%
ドイツ	49,614	60,600	81.9%	マレーシア	29,990	39,025	76.8%
インドネシア	40,283	46,225	87.1%	オーストラリア	27,294	35,253	77.4%
シンガポール	38,910	46,864	83.0%	フランス	24,956	33,291	75.0%
その他	415,836	476,181	87.3%	その他	246,245	316,607	77.8%
合計	1,817,063	2,111,027	86.1%	合計	1,242,911	1,559,416	79.7%

注：中国には香港を含む

表2 品目別にみた申告価格の捕捉率

単位：百万円

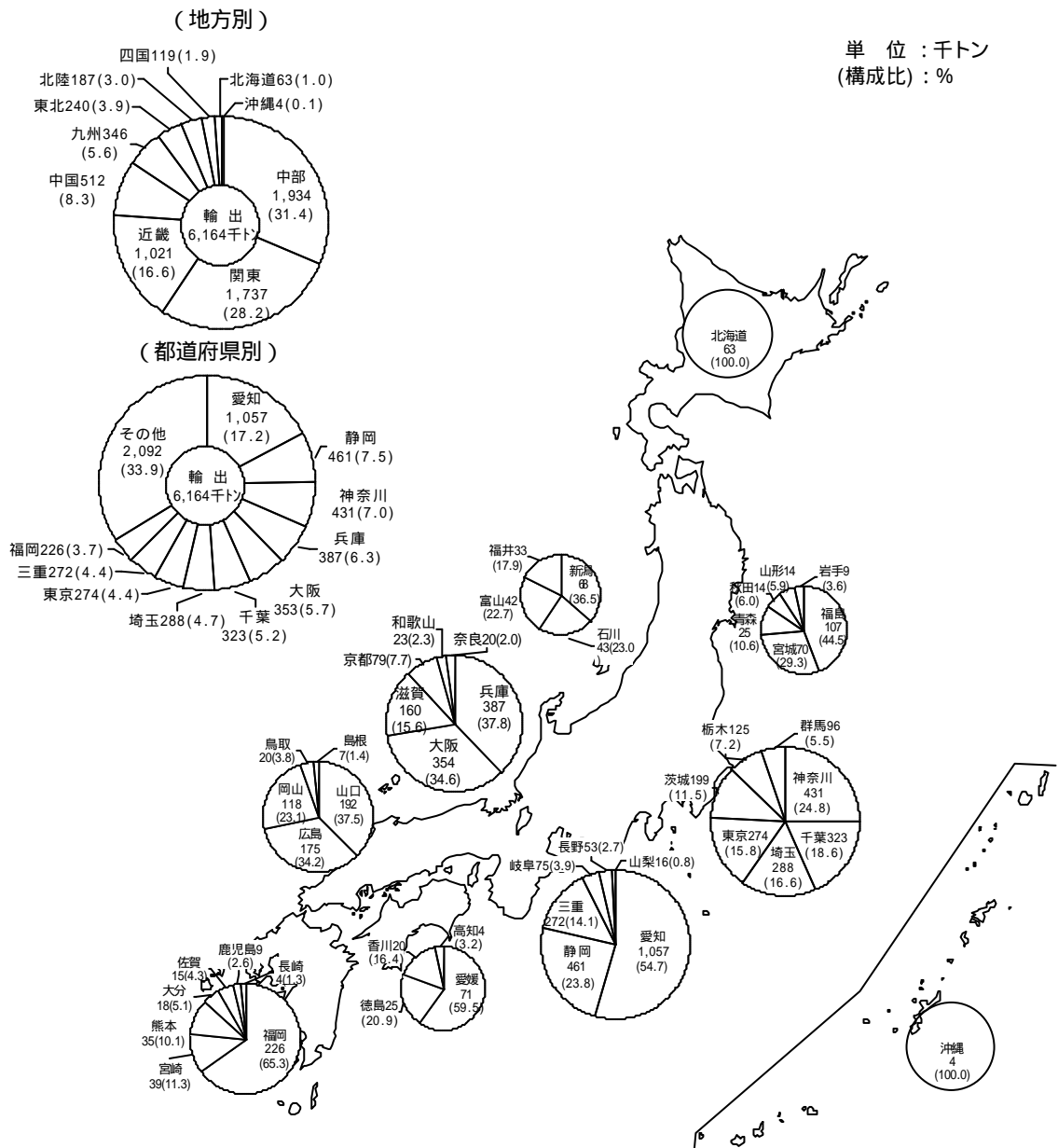
輸 出				輸 入			
品 目	コンテナ調査 金額(A)	貿易統計 金額(B)	捕捉率 (A / B)	品 目	コンテナ調査 金額(A)	貿易統計 金額(B)	捕捉率 (A / B)
機械類及び 輸送用機器類	1,221,093	1,397,338	87.4%	機械類及び 輸送用機器類	298,636	386,850	77.2%
原料別製品	206,636	249,618	82.8%	雑製品	290,348	369,618	78.6%
化学製品	197,376	231,377	85.3%	食料品及び動物	231,744	291,622	79.5%
雑製品	144,733	173,336	83.5%	原料別製品	173,459	210,307	82.5%
食料に適さない 原材料	25,322	31,125	81.4%	化学製品	117,085	143,196	81.8%
食料品及び動物	15,871	20,944	75.8%	食料に適さない 原材料	69,747	83,469	83.6%
その他	6,031	7,290	82.7%	その他	61,892	74,353	83.2%
合計	1,817,063	2,111,027	86.1%	合計	1,242,911	1,559,416	79.7%

### 3. コンテナ貨物の生産地、消費地

#### 3-1. 生産地（輸出）

- ・生産地を都道府県別にみると、愛知県がシェア17.2%で最も多い。
- ・前回調査と比べシェアの拡大幅が大きいのは、愛知県(2.3ポイント増)、埼玉県(1.3ポイント増)など。一方、シェアの減少幅が大きいのは、茨城県(2.2ポイント減)、福岡県(1.2ポイント減)など。
- ・地方別に貨物量みるとみると中部、関東、近畿の順に多く、この3地方で全国の76.1%を占める(10年調査75.2%、5年調査76.6%)。
- ・前回調査と比較すると、中部地方のシェアが2.3ポイント拡大。九州地方、近畿地方では、1ポイント以上シェアが低下。

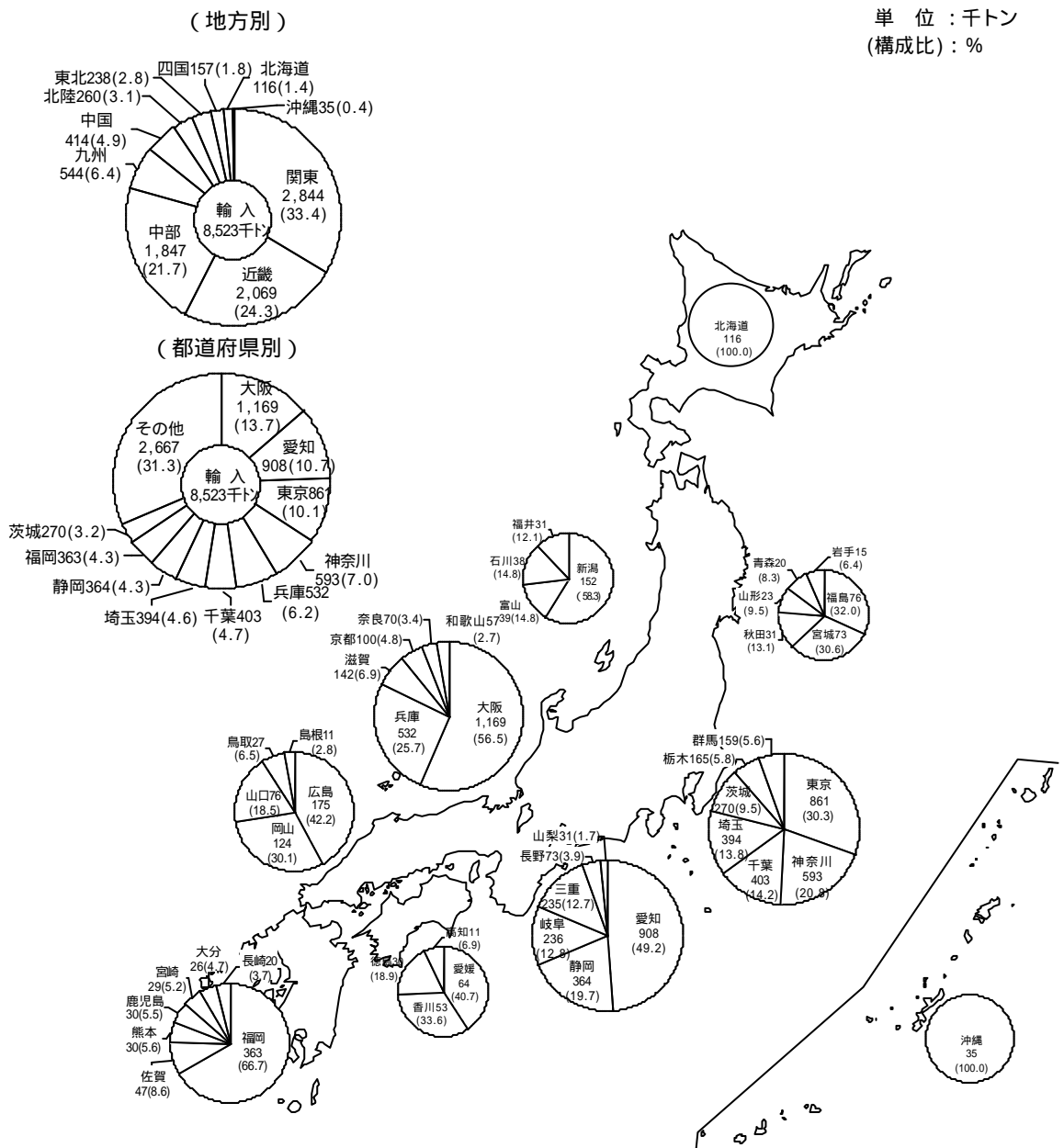
図2 生産地別コンテナ貨物量（輸出）



### 3 - 2 . 消費地 (輸 入)

- ・消費地を都道府県別にみると、大阪府がシェア13.7%で最も多い。
- ・前回調査と比べシェアの拡大幅が大きいのは、千葉県(0.6ポイント増)、新潟県(0.5ポイント増)、大阪府(0.5ポイント増)など。一方、シェアの減少幅が大きいのは、東京都(1.8ポイント減)、神奈川県(0.8ポイント減)などで、特に京浜地域におけるシェアの低下が大きい。
- ・地方別にみると、関東、近畿、中部の順に貨物量が多く、この3地方で全国の79.3%を占める(10年調査80.3%、5年調査81.5%)。
- ・前回調査と比較すると、関東のシェアが1.9ポイント低下。関東への集中傾向は、引き続き弱まりつつある。

図3 消費地別コンテナ貨物量(輸入)



### 3 - 3 . 前回調査との比較

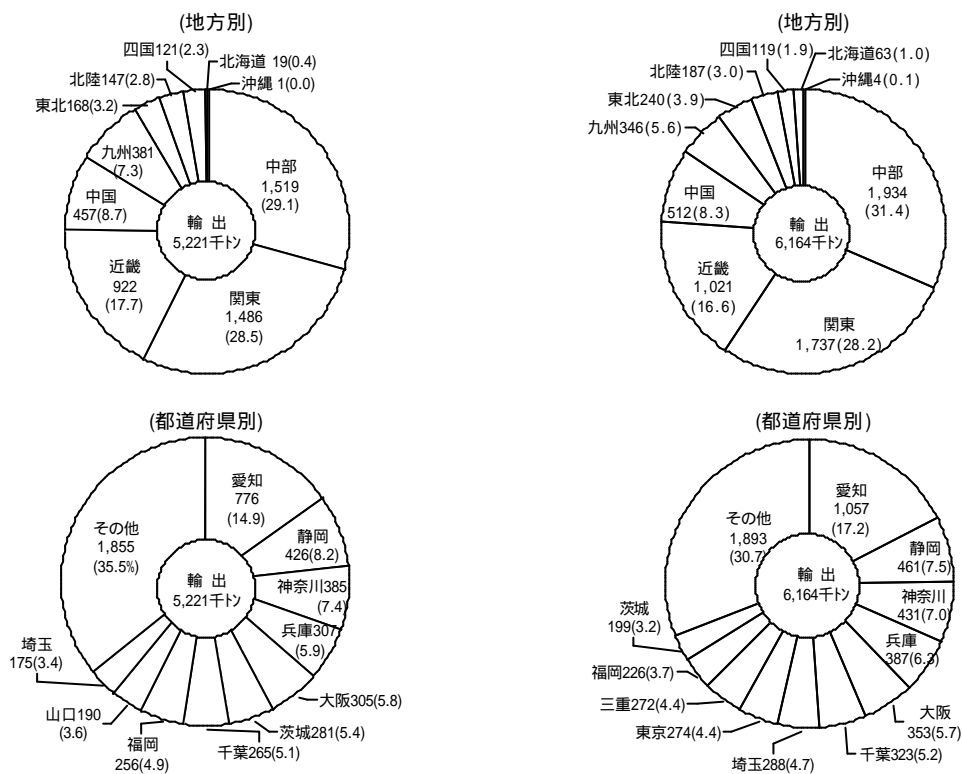
図4 生産地・消費地コンテナ貨物量の前回調査との比較

【平成10年】

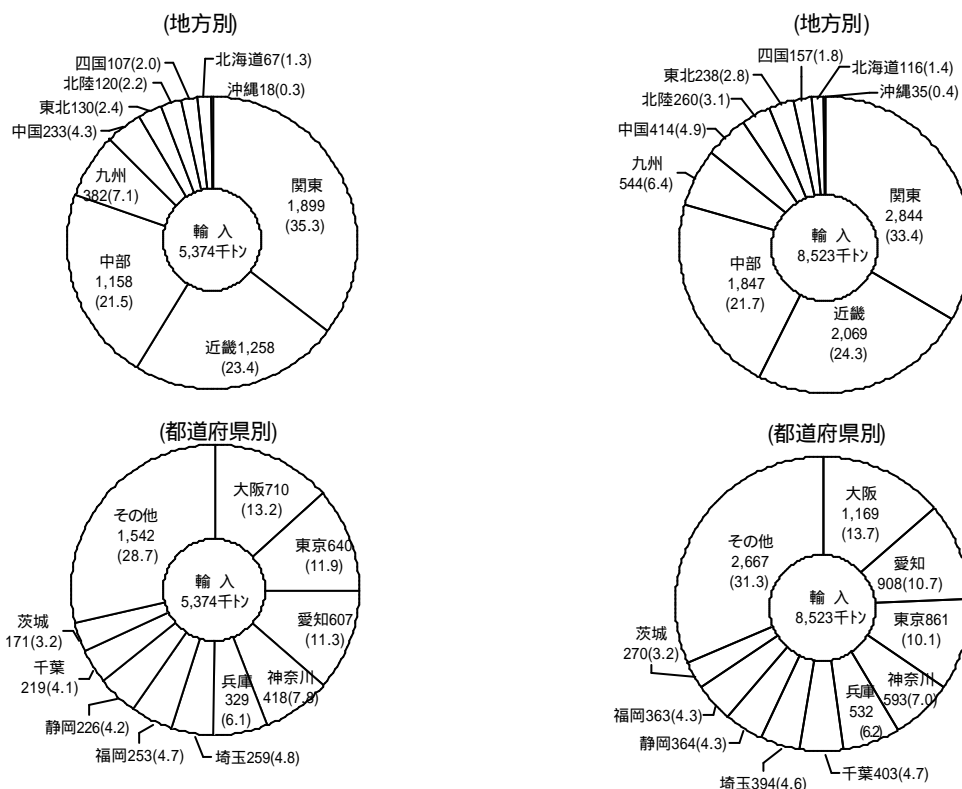
【平成15年】

〔輸出〕

単 位：千トン  
(構成比)：%



〔輸入〕





## 4 . コンテナ貨物の流動状況ーその 1 -

### 4 - 1 . 輸 出

#### 【生産地 詰め場所】

- ・北海道、関東、中部、近畿、九州、沖縄の生産貨物は、90%以上が同一地方内で詰め。
- ・東北貨物は、東北内(57.9%)のほか、関東詰めの比率(39.5%)も高い。
- ・中国、四国貨物は、同一地方内(各々76.2%、68.3%)の比率が高いが、近畿詰めも少なからずある。
- ・北陸貨物は、同一地方内の比率は50%弱であり、詰め場所が近畿、関東などにも分散。

#### 【詰め場所 船積港】

- ・北海道詰め貨物の船積港は、苫小牧港が68.5%、東京港、横浜港が15.2%、他の北海道港湾が12.7%。前回調査に比べ北海道港湾(前回74.8%)の船積比率が拡大。
- ・東北詰め貨物は、仙台塩釜港(32.7%)、横浜港(25.8%)、東京港(23.4%)の順。
- ・関東詰め貨物は東京港(50.2%)、横浜港(46.2%)であり、両港の比率に変化はない。
- ・北陸詰め貨物の船積港は、新潟港(25.1%)、伏木富山港(23.3%)の順。地元港湾積みの比率が拡大。中部詰め貨物の船積港は、名古屋港(69.6%)、清水港(18.0%)の順。
- ・近畿詰め貨物は、神戸港(65.5%)、大阪港(26.8%)であり、両港の比率に変化はない。
- ・中国詰め貨物の船積港は、広島港(21.0%)、神戸港(19.5%)の順で、神戸港の比率が20ポイント以上低下。四国詰め貨物も、神戸港積みが前回調査に比べ約17ポイント比率が低下。
- ・九州詰め貨物の船積港は、北九州港(46.7%)、博多港(41.3%)の順。前回調査と比較すると、北九州港積みの比率(前回26.3%)が拡大。

図5 コンテナ貨物の流動状況（輸出） - （生産地～詰め場所～船積港） -

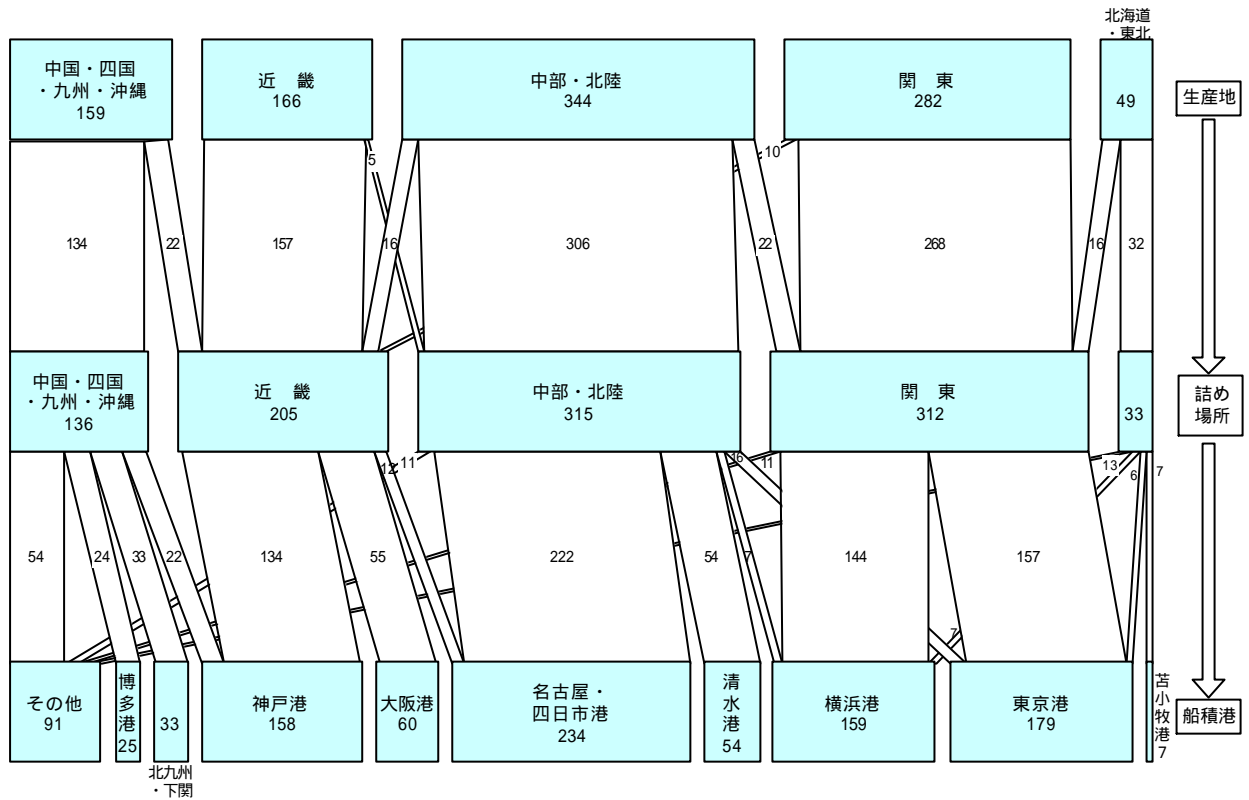
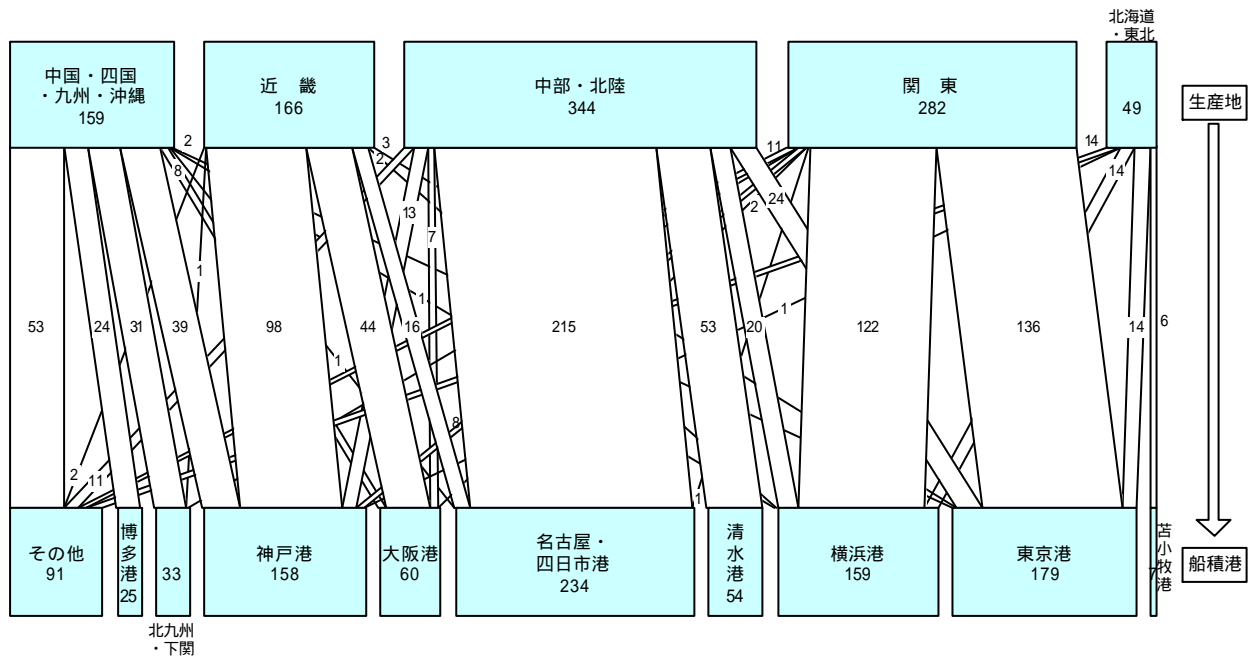


図6 コンテナ貨物の流動状況（輸出） - （生産地～船積港） -



## 4 - 2 . 輸 入

### 【船卸港 取出場所】

- ・北海道取出貨物の船卸港は、苫小牧港が71.7%であり、東京港、横浜港(8.8%)は、前回調査に比べ比率が16.6ポイント低下。
- ・東北取出貨物は、東京港(31.0%)、仙台塩釜港(20.1%)の順であり、仙台塩釜港の比率が15.9ポイント拡大。
- ・関東取出貨物は東京港(62.5%)、横浜港(35.4%)の順、近畿取出貨物の船卸港は、大阪港(57.7%)、神戸港(37.7%)の順で、前回調査に比べ各々東京港(前回58.4%)、大阪港(同48.6%)の比率が拡大し、横浜港(同41.5%)、神戸港(同47.8%)の比率は低下。
- ・北陸取出貨物の船卸港は、新潟港(47.1%)、伏木富山港(10.7%)の順で、地元港湾卸しの比率が拡大。中部取出貨物の船卸港は、名古屋港(73.6%)、清水港(11.9%)の順。
- ・中国取出貨物の船積港は、神戸港(20.8%)、福山港(17.1%)の順であり、前回調査に比べ神戸港の比率が10ポイント以上低下している。四国取出貨物も、神戸港卸し(38.5%)の比率が10ポイント比率が低下。
- ・九州取出貨物の船卸港は、博多港(46.0%)、北九州港(36.2%)の順で、前回調査と比較すると、北九州港卸しの比率(前回45.3%)が低下。

### 【取出場所 消費地】

- ・北海道、関東、中部、近畿、九州、沖縄の消費貨物は、90%以上が同一地方内で取出し。
- ・東北、北陸、中国も90%近くが、同一地方内での取出し。
- ・輸入は輸出に比べて、総じて同一地方内で取り出されている比率が高い。

図7 コンテナ貨物の流動状況（輸入） - （船卸港～取出場所～消費地） -

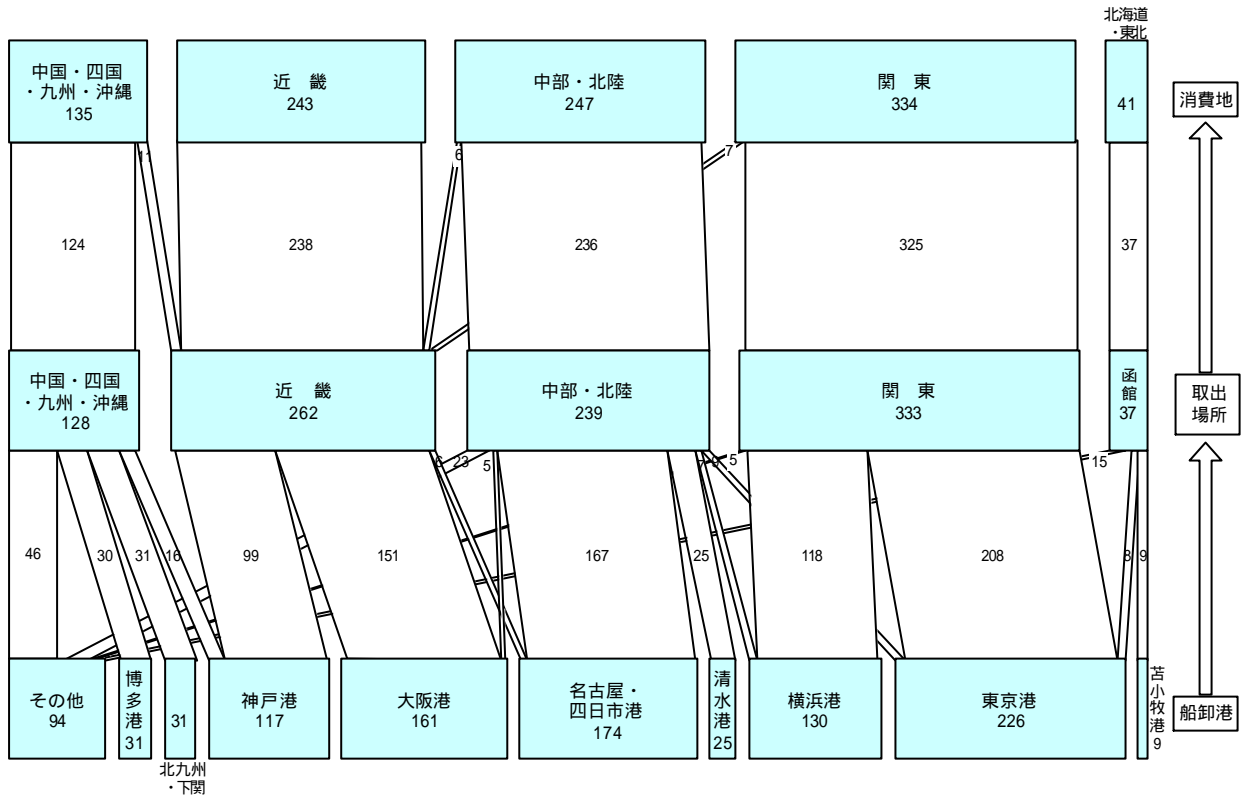


図8 コンテナ貨物の流動状況（輸入） - （船卸港～消費地） -

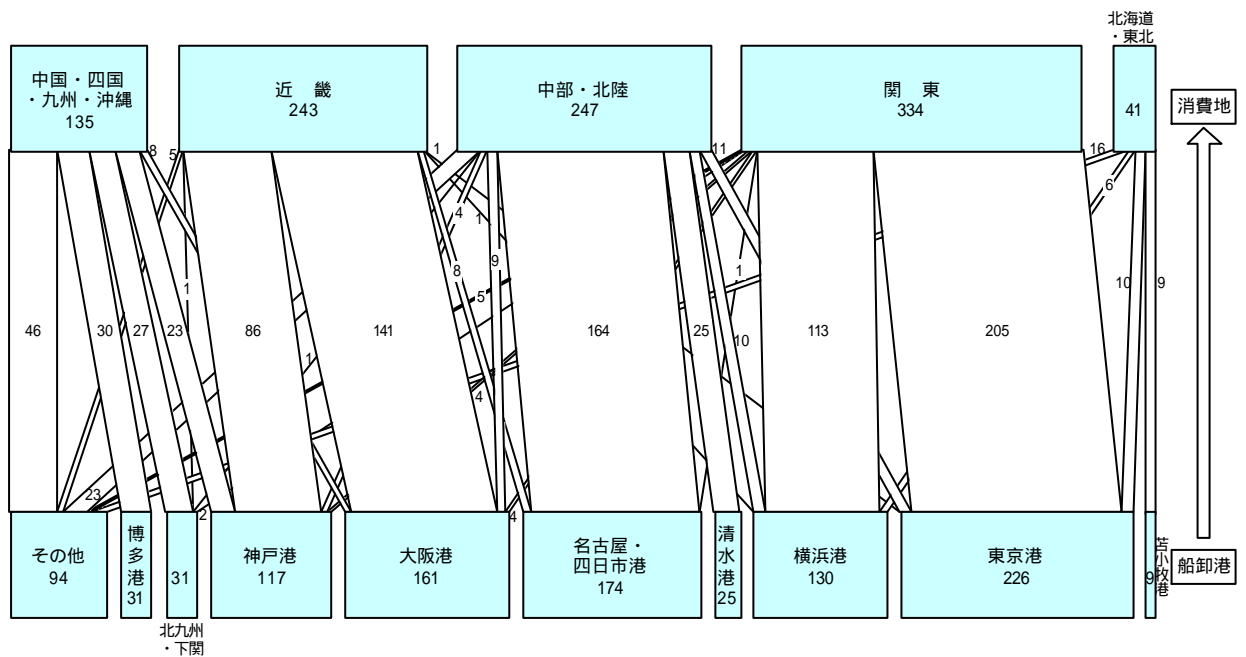


表3 生産地・消費地別船積港・船卸港別コンテナ貨物量シェア

(単位：トン、%)

生産・消費 地域	輸 出			輸 入		
	船 積 港	貨物量	構成比	船 卸 港	貨物量	構成比
北海道	苫小牧港	39,555	63.1%	苫小牧港	79,322	68.6%
	横 浜 港	6,895	11.0%	石狩湾新港	12,360	10.7%
	東 京 港	4,800	7.7%	横 浜 港	5,985	5.2%
	石狩湾新港	4,555	7.3%	東 京 港	4,574	4.0%
	釧路港	2,911	4.6%	名古屋港	3,675	3.2%
	地域内他港	2,333	3.7%	地域内他港	8,294	7.2%
	地域外他港	1,645	2.6%	地域外他港	1,483	1.3%
	計	62,694	100.0%	計	115,693	100.0%
東北	東 京 港	83,666	34.8%	東 京 港	76,608	32.2%
	横 浜 港	78,608	32.7%	横 浜 港	46,290	19.5%
	仙台釜港	45,651	19.0%	仙台釜港	41,650	17.5%
	秋 田 港	8,743	3.6%	秋 田 港	30,745	12.9%
	八 戸 港	7,921	3.3%	八 戸 港	15,846	6.7%
	地域内他港	8,015	3.3%	地域内他港	14,704	6.2%
	地域外他港	7,655	3.2%	地域外他港	12,126	5.1%
	計	240,259	100.0%	計	237,969	100.0%
関東	東 京 港	839,054	48.3%	東 京 港	1,746,023	61.4%
	横 浜 港	753,943	43.4%	横 浜 港	962,422	33.8%
	神 戸 港	48,025	2.8%	神 戸 港	34,117	1.2%
	千 葉 港	36,061	2.1%	大 阪 港	32,593	1.1%
	川 崎 港	21,743	1.3%	千 葉 港	27,511	1.0%
	地域内他港	4,646	0.3%	地域内他港	11,744	0.4%
	地域外他港	33,512	1.9%	地域外他港	29,387	1.0%
	計	1,736,984	100.0%	計	2,843,797	100.0%
北陸	神 戸 港	46,838	25.0%	新 潟 港	109,924	42.3%
	横 浜 港	26,913	14.4%	伏木富山港	23,929	9.2%
	伏木富山港	20,884	11.2%	金 沢 港	22,325	8.6%
	新 潟 港	20,500	11.0%	名 古 屋 港	21,211	8.2%
	名古屋港	19,173	10.2%	東 京 港	20,196	7.8%
	地域内他港	19,285	10.3%	地域内他港	11,515	4.4%
	地域外他港	33,537	17.9%	地域外他港	50,871	19.6%
	計	187,130	100.0%	計	259,971	100.0%
中部	名古屋港	1,232,745	63.7%	名古屋港	1,299,697	70.4%
	清水港	329,617	17.0%	清 水 港	212,499	11.5%
	東 京 港	136,342	7.0%	四 日 市 港	75,346	4.1%
	横 浜 港	94,707	4.9%	横 浜 港	75,096	4.1%
	四 日 市 港	75,464	3.9%	東 京 港	69,956	3.8%
	地域内他港	3,074	0.2%	地域内他港	20,184	1.1%
	地域外他港	62,122	3.2%	地域外他港	94,128	5.1%
	計	1,934,071	100.0%	計	1,846,906	100.0%
近畿	神 戸 港	604,616	59.2%	大 阪 港	1,197,618	57.9%
	大 阪 港	268,250	26.3%	神 戸 港	732,174	35.4%
	名古屋港	80,413	7.9%	名古屋港	54,703	2.6%
	四 日 市 港	19,118	1.9%	四 日 市 港	16,607	0.8%
	東 京 港	16,584	1.6%	堺 泉 北 港	14,303	0.7%
	地域内他港	5,538	0.5%	地域内他港	12,802	0.6%
	地域外他港	26,971	2.6%	地域外他港	40,601	2.0%
	計	1,021,490	100.0%	計	2,068,808	100.0%
中国	神 戸 港	153,340	29.9%	神 戸 港	110,826	26.8%
	広島港	84,220	16.4%	福 山 港	64,090	15.5%
	岩 国 港	64,549	12.6%	広 島 港	59,686	14.4%
	徳山下松港	54,626	10.7%	水 島 港	45,747	11.1%
	北九州港	46,942	9.2%	大 阪 港	36,541	8.8%
	地域内他港	67,246	13.1%	地域内他港	57,155	13.8%
	地域外他港	41,124	8.0%	地域外他港	39,599	9.6%
	計	512,047	100.0%	計	413,644	100.0%
四国	神 戸 港	61,115	51.3%	神 戸 港	71,221	45.4%
	松 山 港	16,235	13.6%	大 阪 港	19,263	12.3%
	大 阪 港	15,596	13.1%	松 山 港	16,539	10.5%
	今 治 港	9,142	7.7%	高 松 港	15,634	10.0%
	東 京 港	5,540	4.7%	徳島小松島港	11,268	7.2%
	地域内他港	8,343	7.0%	地域内他港	15,770	10.1%
	地域外他港	3,125	2.6%	地域外他港	7,160	4.6%
	計	119,096	100.0%	計	156,855	100.0%
九州	博 多 港	141,700	40.9%	博 多 港	252,818	46.4%
	北九州港	140,987	40.7%	北九州港	182,716	33.6%
	神 戸 港	23,186	6.7%	志 布 志 港	22,603	4.2%
	細 島 港	9,910	2.9%	神 戸 港	12,275	2.3%
	大 阪 港	9,336	2.7%	伊 万 里 港	12,244	2.2%
	地域内他港	11,625	3.4%	地域内他港	44,222	8.1%
	地域外他港	9,451	2.7%	地域外他港	17,556	3.2%
	計	346,195	100.0%	計	544,434	100.0%
沖縄	那 覇 港	4,273	97.5%	那 覇 港	31,687	90.2%
	神 戸 港	59	1.3%	博 多 港	1,489	4.2%
	東 京 港	32	0.7%	神 戸 港	830	2.4%
	大 阪 港	16	0.4%	大 阪 港	714	2.0%
	博 多 港	1	0.0%	石 垣 港	128	0.4%
	地域内他港	0	0.0%	地域内他港	0	0.0%
	地域外他港	0	0.0%	地域外他港	271	0.8%
	計	4,381	100.0%	計	35,119	100.0%
全国	名古屋港	1,348,450	21.9%	東 京 港	1,928,272	22.6%
	東 京 港	1,105,260	17.9%	名古屋港	1,388,209	16.3%
	横 浜 港	978,713	15.9%	大 阪 港	1,375,410	16.1%
	神 戸 港	975,404	15.8%	横 浜 港	1,110,275	13.0%
	大 阪 港	372,159	6.0%	神 戸 港	998,938	11.7%
	その他港	1,384,361	22.5%	その他港	1,722,092	20.2%
	計	6,164,347	100.0%	計	8,523,196	100.0%

5 . コンテナ貨物の流動状況－その2－

5 - 1 . 輸 出

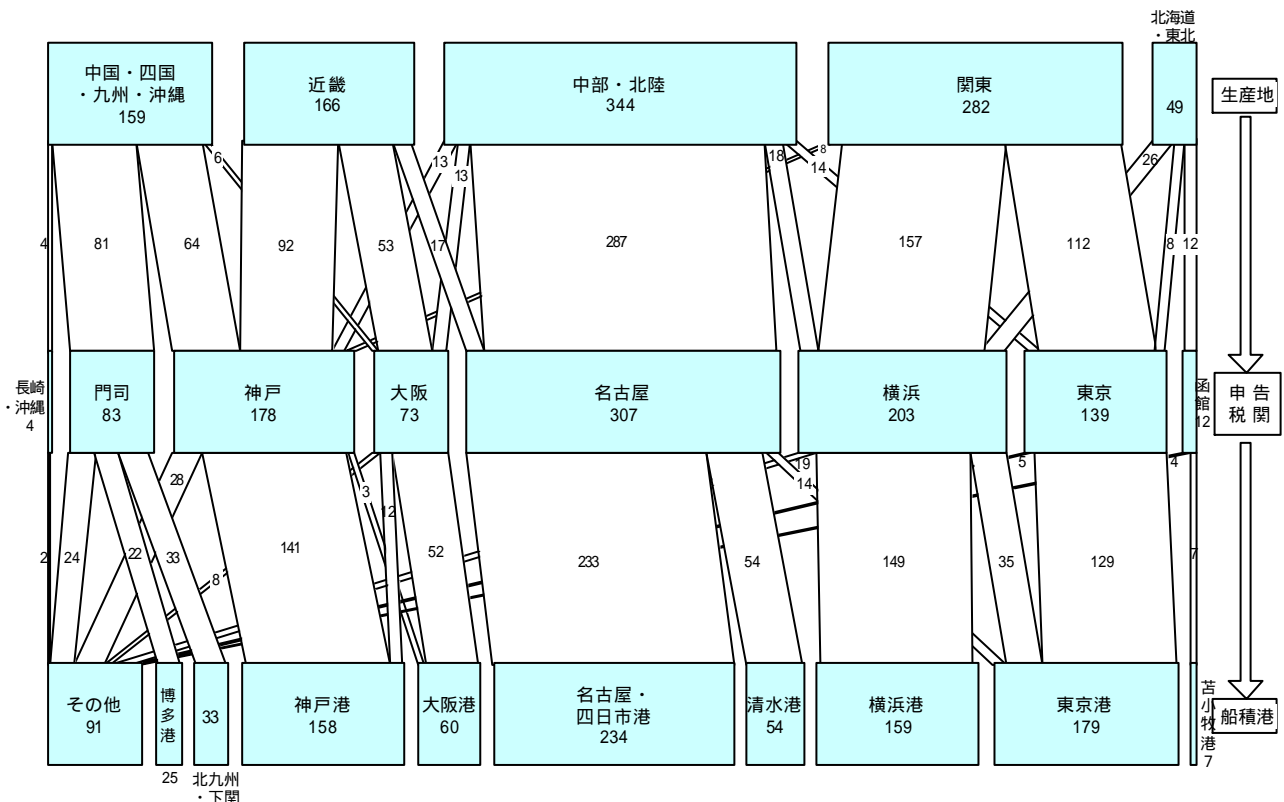
【生産地 申告税関】

- ・北海道生産貨物は函館税関、中部地方は名古屋税関、四国地方は神戸税関、九州地方は門司税関、沖縄は沖縄地区税関での通関割合が圧倒的に高い。
- ・東北地方と関東地方は、90%以上が横浜税関、東京税関の2税関で通関。関東地方は、前回調査と比較すると、東京税関通関貨物の比率が1.9ポイント低下。
- ・近畿地方は神戸、大阪の両税関で80%以上が通関され、前回調査と比較すると、大阪税関通関貨物の比率が3.1ポイント低下。

【申告税関 船積港】

- ・東京税関通関貨物は、93.1%が東京港積み。
- ・横浜税関通関貨物は横浜港で73.4%、東京港で17.3%が船積み。前回調査と比較すると、横浜港の船積比率(前回68.5%)が拡大。
- ・名古屋税関通関貨物の船積港は、名古屋港(70.9%)、清水港(17.5%)の順。前回調査と比較すると、名古屋他港積みの比率(前回69.0%)が拡大。
- ・神戸税関通関貨物の船積港は、神戸港(79.4%)、大阪港(4.0%)、その他港(16.6%)〔広島港、水島港など〕の順。前回調査と比べ、その他港積みの比率(前回6.8%)が拡大。
- ・門司税関通関貨物の船積港は、北九州港(36.7%)、博多港(26.6%)、その他港(36.7%)〔岩国港、徳山下松港など〕の順。前回調査と比べ、その他港積みの比率(前回34.9%)が拡大。

図9 コンテナ貨物の流動状況（輸出） - （生産地～申告税関～船積港） -



## 5 - 2 . 輸 入

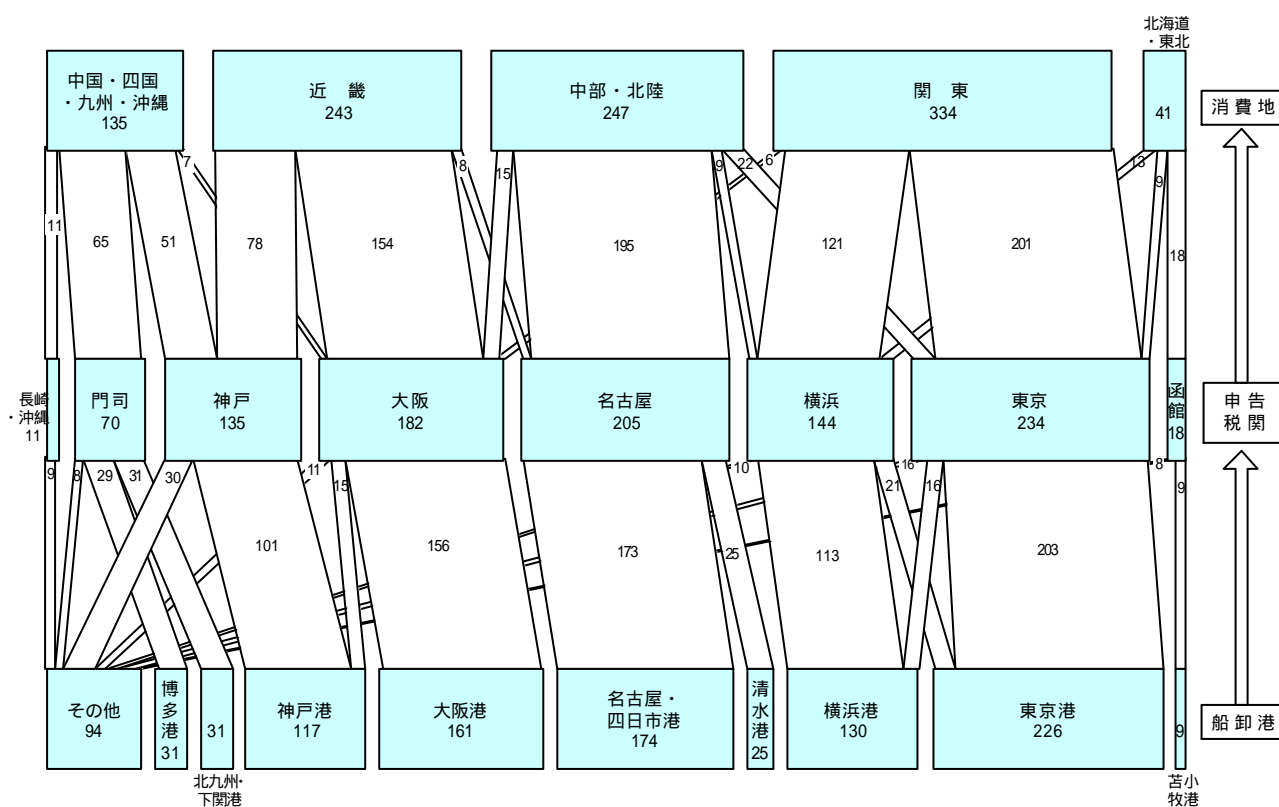
### 【船卸港 申告税関】

- ・ 函館税関通関貨物の船卸港は、51.2%が苫小牧港卸し。東京港、横浜港卸しの比率(5.2%)は、前回調査(15.8%)に比べ低下。
- ・ 東京税関通関貨物は、86.6%が東京港卸し。
- ・ 横浜税関通関貨物は横浜港で78.2%、東京港で14.5%が船卸し。前回調査と比較すると横浜港(前回79.2%)、東京港(前回16.2%)ともに船卸比率が低下。
- ・ 名古屋税関通関貨物の船卸港は、名古屋港(79.3%)、清水港(12.4%)の順。
- ・ 神戸税関通関貨物の船卸港は、神戸港が74.7%、大阪港が3.1%、大阪税関通関貨物の船卸港は、大阪港が85.8%、神戸港が8.1%。前回調査と比較すると、いずれも神戸港、大阪港以外の港湾の比率(前回神戸税関通関貨物8.7%、大阪税関通関貨物4.8%)が拡大。

### 【申告税関 消費地】

- ・ 輸出と同様に、北海道消費貨物は函館税関、中部地方は名古屋税関、四国地方は神戸税関、九州地方は門司税関、沖縄は沖縄地区税関が通関されている割合が圧倒的に高い。
- ・ 関東地方は、東京税関が60.4%、横浜税関が36.3%であり、前回と比較すると東京税関の比率が4.9ポイント拡大。
- ・ 近畿地方は神戸、大阪の両税関で90%以上が通関され、前回と比較すると大阪税関の比率が6.0ポイント拡大。

図 1 0 コンテナ貨物の流動状況（輸入） - （船卸港～申告税関～消費地） -



## 6 . 距離帯別生産地・消費地分布

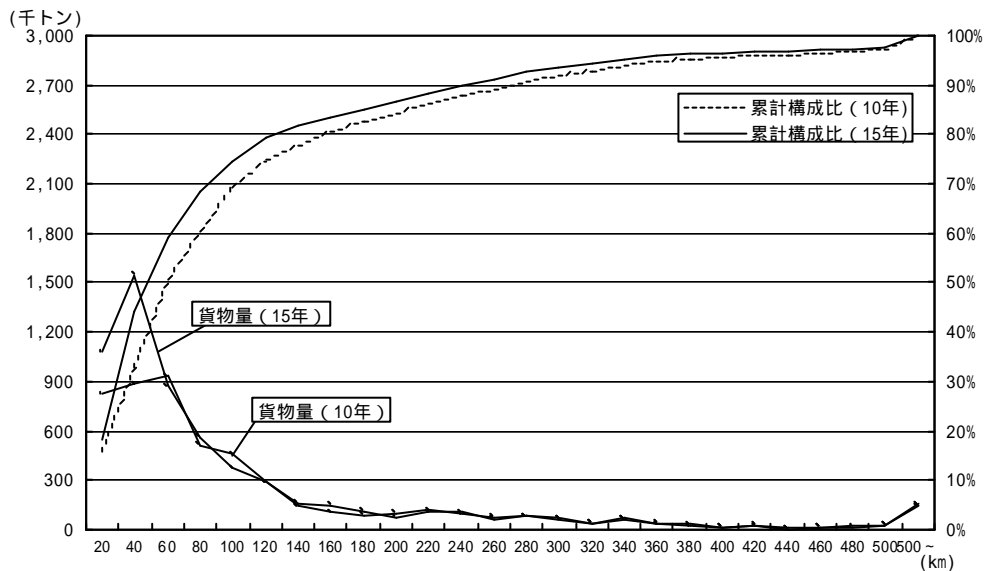
### 【輸 出】

- ・生産地から船積港までの距離帯別にコンテナ貨物量をみると、40 k m未満の比率が44.2 %、100 k m未満の比率が74.5%、200 k m未満の比率が86.5%。
- ・前回調査と比較すると、とりわけ40 k m未満の貨物の比率拡大(11.4ポイント)が顕著。

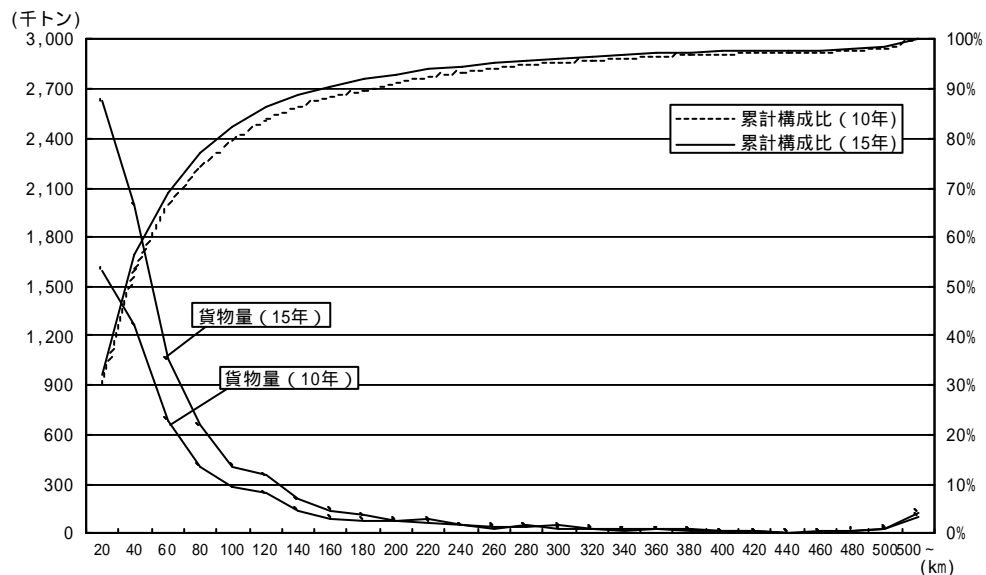
### 【輸 入】

- ・船卸港から消費地までの距離帯別にコンテナ貨物量をみると、40 k m未満の比率が56.3 %、100 k m未満の比率が82.1%、200 k m未満の比率が92.9%。輸出に比べ、近距離輸送の貨物の比率が大きい。
- ・前回調査と比較すると、輸出ほどではないが近距離輸送の貨物の比率が拡大(40 k m未満：2.7ポイント、100 k m未満：2.7ポイント)。

図 1 1 生産地・消費地～船積港・船卸湾間の距離帯別コンテナ貨物量  
輸 出



### 輸 入



注：生産地・消費地区分は市区町村レベル。



## 7. コンテナ貨物の主な輸送手段

### 【輸出】

- ・ 詰め場所(バンニング場所)から船積場所までの主な輸送手段は、トレーラが95.6%。前回調査と比較すると、トレーラの比率が拡大し、はしけ・船舶・フェリーの比率は減少。
- ・ 詰め場所から船積場所まではしけ・船舶・フェリーで輸送された貨物は、神戸港積みと東京港積みで約80%。

### 【輸入】

- ・ 船卸場所から取出場所(デバンニング場所)までの主な輸送手段は、トレーラが98.0%。前回調査と比較すると、輸出と同様にトレーラの比率が拡大。
- ・ 船卸場所から取出場所まではしけ・船舶で輸送された貨物は、神戸港卸しが34.7%を占め、以下、大阪港(23.4%)、東京港(18.1%)の順。

図12 コンテナ貨物の主な輸送手段(貨物量割合)

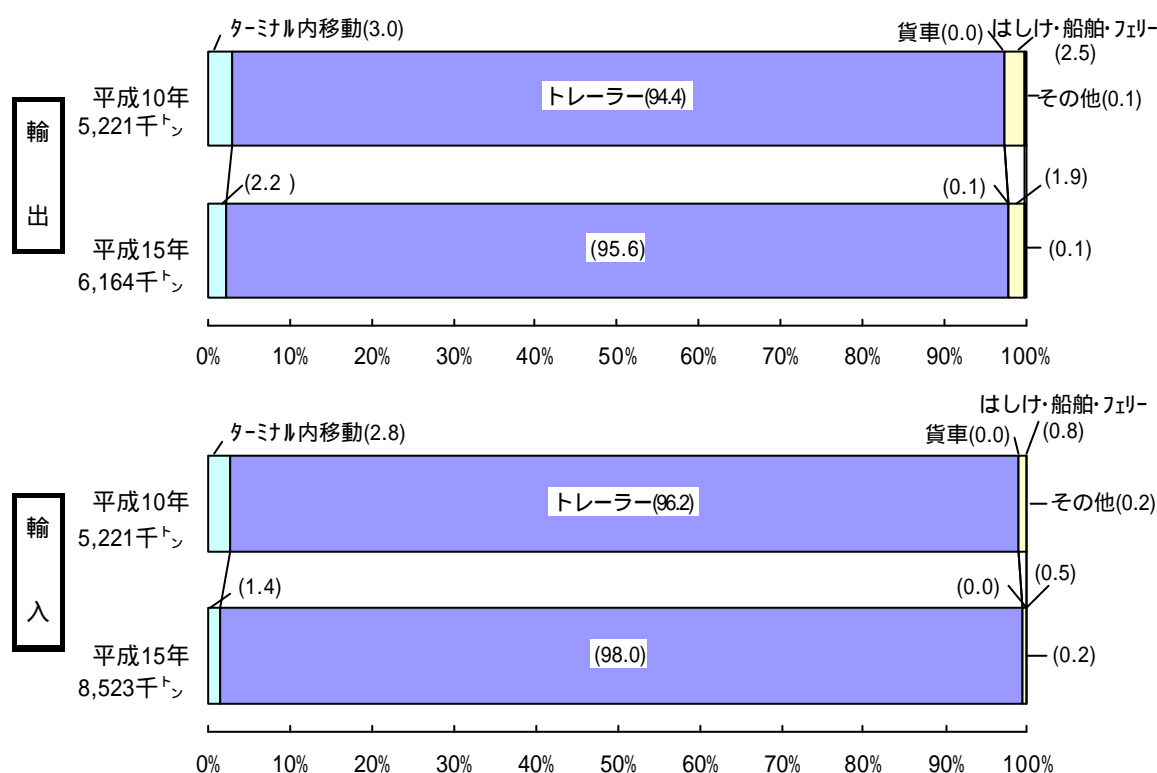


表4 はしけ・船舶・フェリー利用貨物の船積港・船卸港

(単位: トン)

船積港	輸 出				船卸港	輸 入			
	平成15年		平成10年			平成15年		平成10年	
	貨物量	構成比	貨物量	構成比		貨物量	構成比	貨物量	構成比
神戸港	65,367	54.8%	103,162	78.5%	神戸港	13,707	34.7%	22,652	56.1%
東京港	30,798	25.8%	5,552	4.2%	大阪港	9,223	23.4%	5,622	13.9%
横浜港	12,026	10.1%	1,503	1.1%	東京港	7,150	18.1%	4,906	12.2%
大阪港	8,623	7.2%	17,579	13.4%	横浜港	4,403	11.2%	4,131	10.2%
博多港	1,035	0.9%	1,099	0.8%	博多港	1,534	3.9%	763	1.9%
その他港	1,477	1.2%	2,543	1.9%	その他港	3,465	8.8%	2,272	5.6%
合計	119,326	100.0%	131,438	100.0%	合計	39,482	100.0%	40,346	100.0%

## 8 . 税関別申告状況

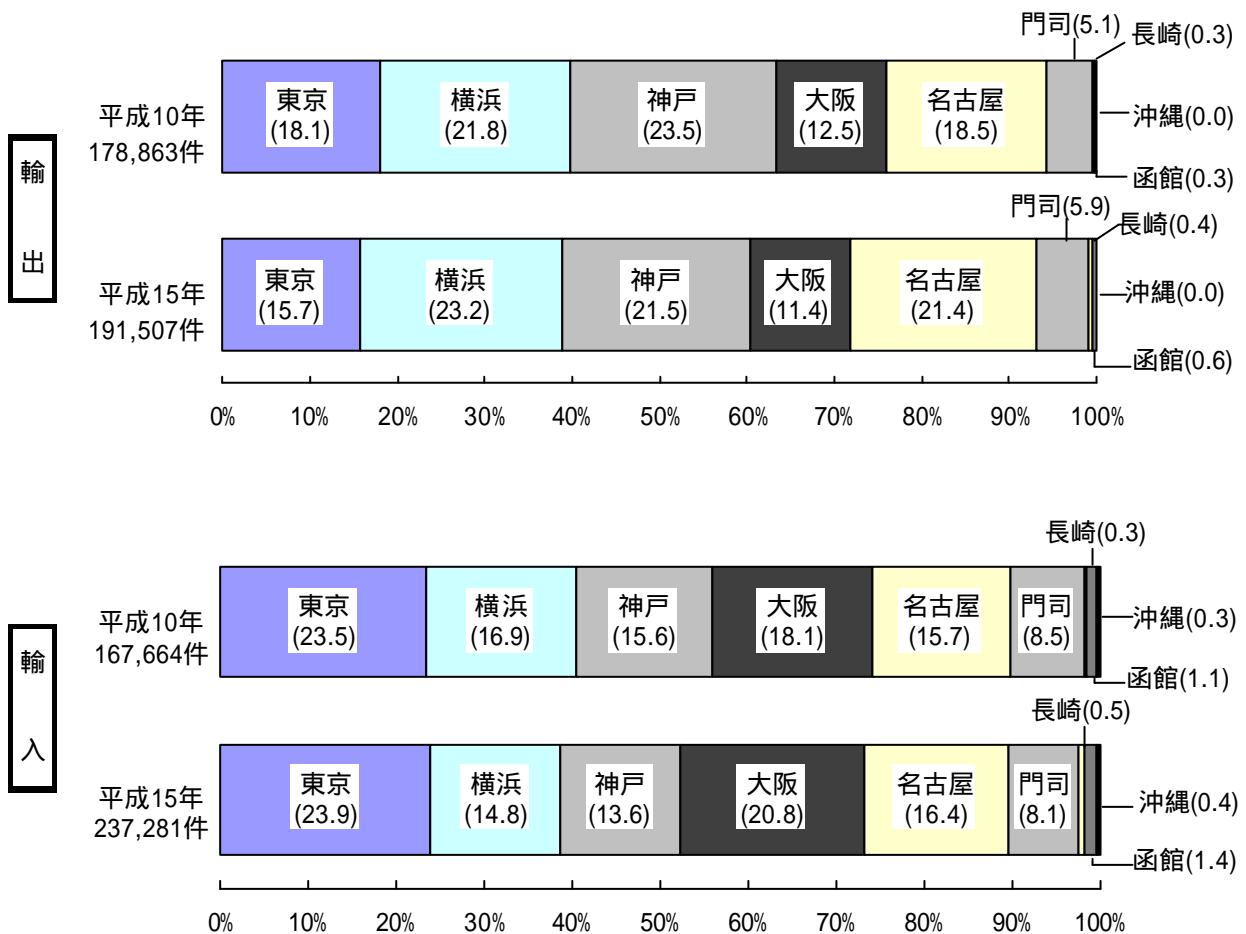
### 【輸出】

- ・ 申告件数を税関別にみると、横浜税関が23.2%を占める。以下、神戸税関、名古屋税関、東京税関、大阪税関の順。
- ・ 上記5税関の占めるシェア（件数ベース）は93.2%であり、前回調査よりシェアは低下（10年調査：94.4%、5年調査95.4%）。

### 【輸入】

- ・ 輸入の申告件数を税関別にみると、東京税関が23.9%を占める。以下、大阪税関、名古屋税関、横浜税関、神戸税関の順。
- ・ 上記5税関の占めるシェア（件数ベース）は89.5%であり、前回調査と比較するとシェアに大きな変化はなし（10年調査：89.8%、5年調査89.2%）。

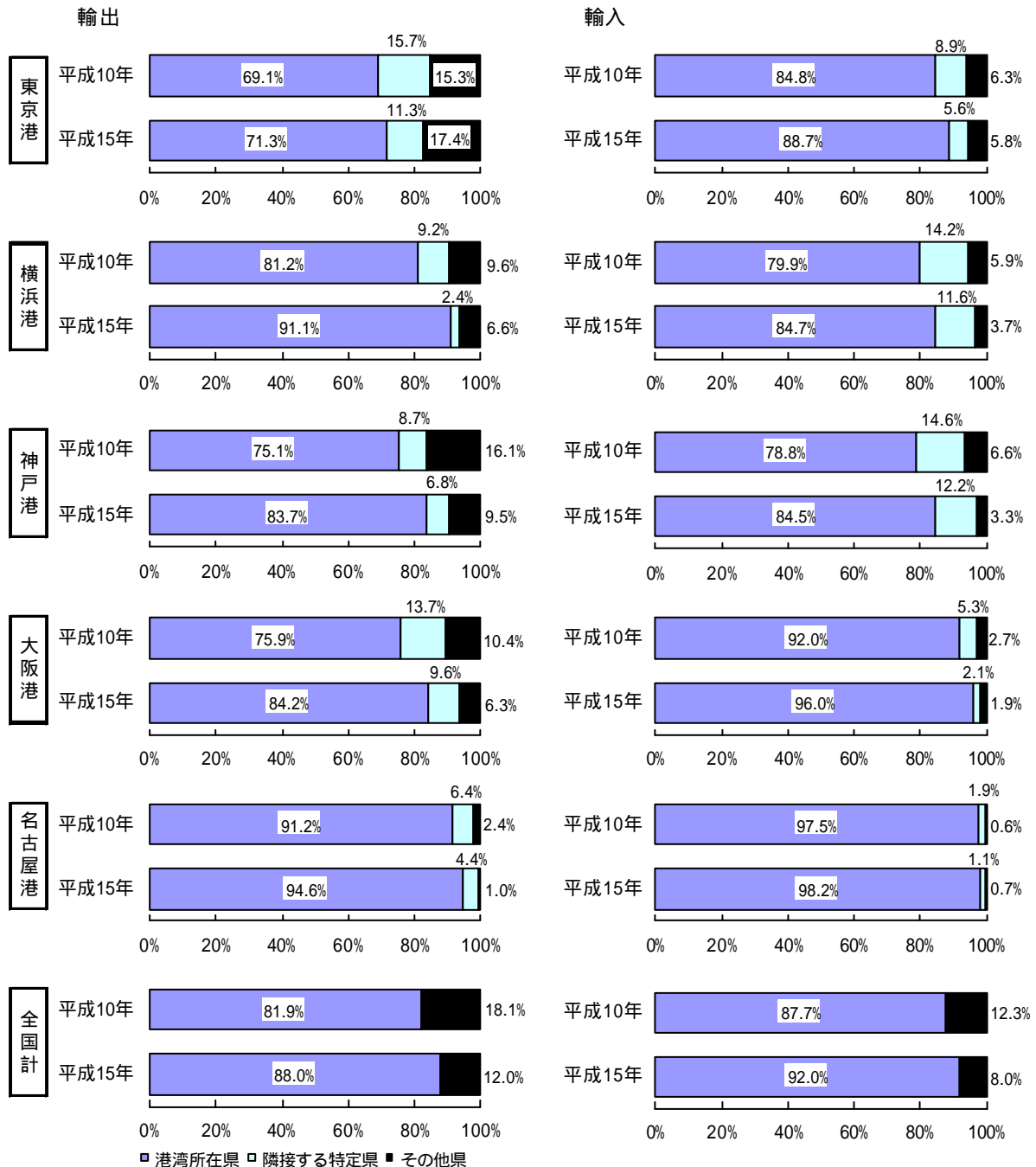
図 1 3 税関別申告件数割合



## 9. 輸出入申告時の蔵置場所

- ・輸出入申告時の状況（申告時に利用した蔵置場所の立地）をみると、輸出は船積港所在県で申告している比率が88.0%、輸入は船卸港所在県で申告している比率が92.0%。
- ・5大港積み貨物のうち、船積港所在県で輸出申告している比率が比較的低いのは、東京港(71.3%)
- ・5大港卸し貨物は、各港とも船卸港所在県で輸入申告している比率が80%以上。
- ・前回調査と比較すると、輸出入ともに船積港・船卸港所在県で申告している比率が拡大。

図14 港湾別に見たコンテナ貨物の蔵置場所の立地場所



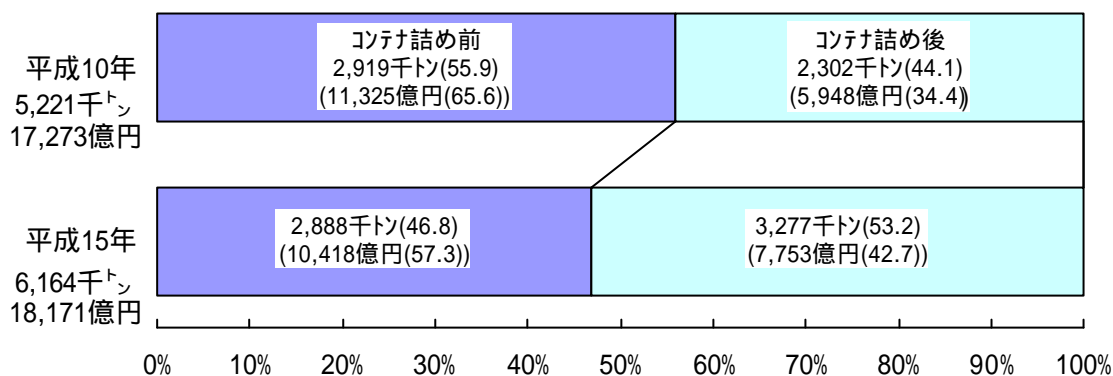
注) 隣接する特定県：東京港(神奈川県)、横浜港(東京都)、神戸港(大阪府)、大阪港(兵庫県)、名古屋港(三重県)  
 全国計には隣接する特定県の区分はナシ

## 10 . 申告時の貨物の状態

### 10 - 1 . 輸 出

- ・ 申告時の輸出コンテナ貨物の状態は、「コンテナ詰め後」が貨物量では53.2%（前回調査44.1%）、申告件数では25.3%（同18.1%）。
- ・ 調査年ごとに貨物量、申告件数とも「コンテナ詰め後通関」の比率が拡大。特に貨物量では、「コンテナ詰め後」が「コンテナ詰め前」を上回る。

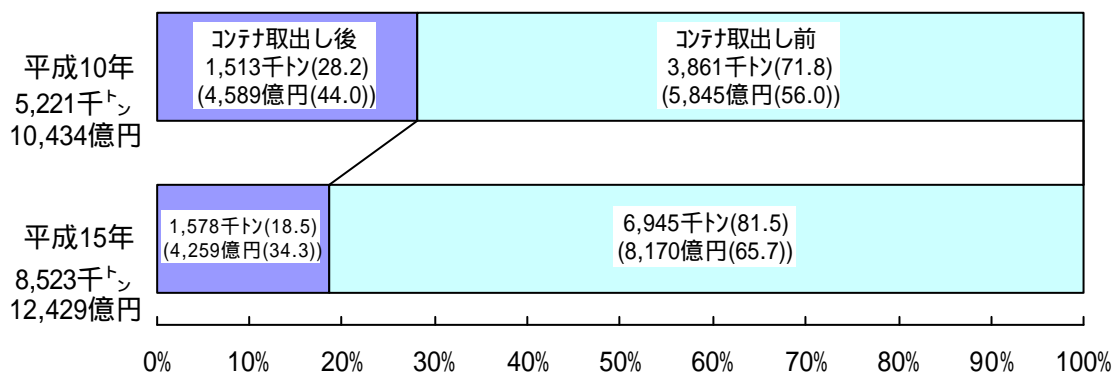
図 1 5 申告時の貨物の状態（輸出：貨物量，申告価格）



### 10 - 2 . 輸 入

- ・ 申告時における輸入コンテナ貨物の状態は、「コンテナ取出し前」が貨物量では81.5%（前回調査71.8%）、申告件数では61.7%（同53.8%）。
- ・ 調査年ごとに貨物量、申告件数とも「コンテナ取出し前通関」の比率が拡大。

図 1 6 申告時の貨物の状態（輸入：貨物量，申告価格）

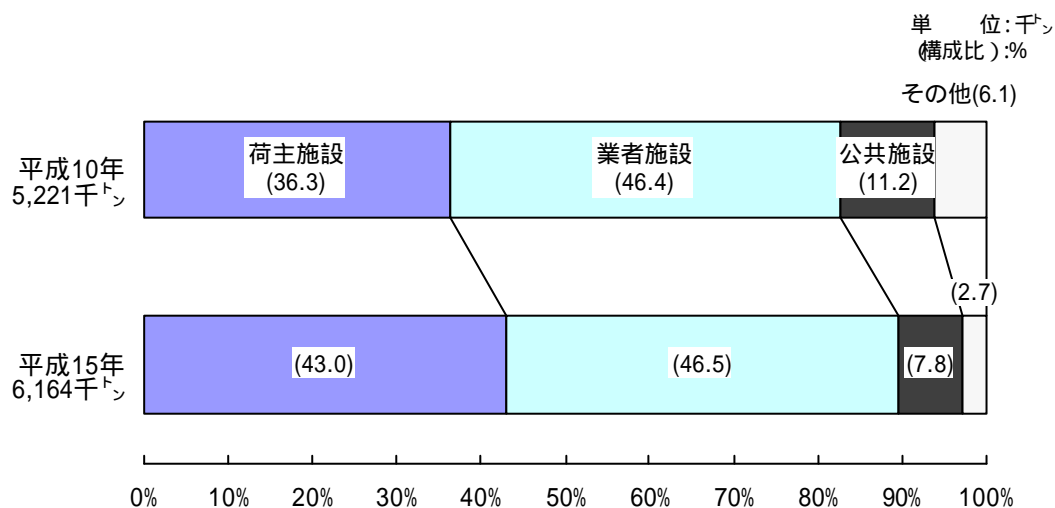


## 1 1 . コンテナ貨物の詰め施設・取出施設

### 1 1 - 1 . コンテナに詰める施設（輸出）

- ・コンテナ詰め(バンニング)施設の比率は、業者施設(46.5%)、荷主施設(43.0%)、公共施設(7.8%)、第3セクター施設、インランドデポなどのその他施設(2.7%)の順。
- ・前回調査と比較すると、荷主施設の割合が6.7ポイント拡大。
- ・主要船積港別にみると、荷主施設の利用割合が高いのは、北九州港(54.8%)、名古屋港(49.4%)、業者施設は四日市港(58.5%)、公共施設は下関港(62.2%)など。
- ・コンテナ詰め施設について温度調節機能をみると、「冷凍・冷蔵倉庫」利用が0.7%、「恒温倉庫」利用が6.0%であり、前回調査に比べ「恒温倉庫」の割合が3.0ポイント拡大。

図 1 7 施設別コンテナ貨物量割合（輸出）

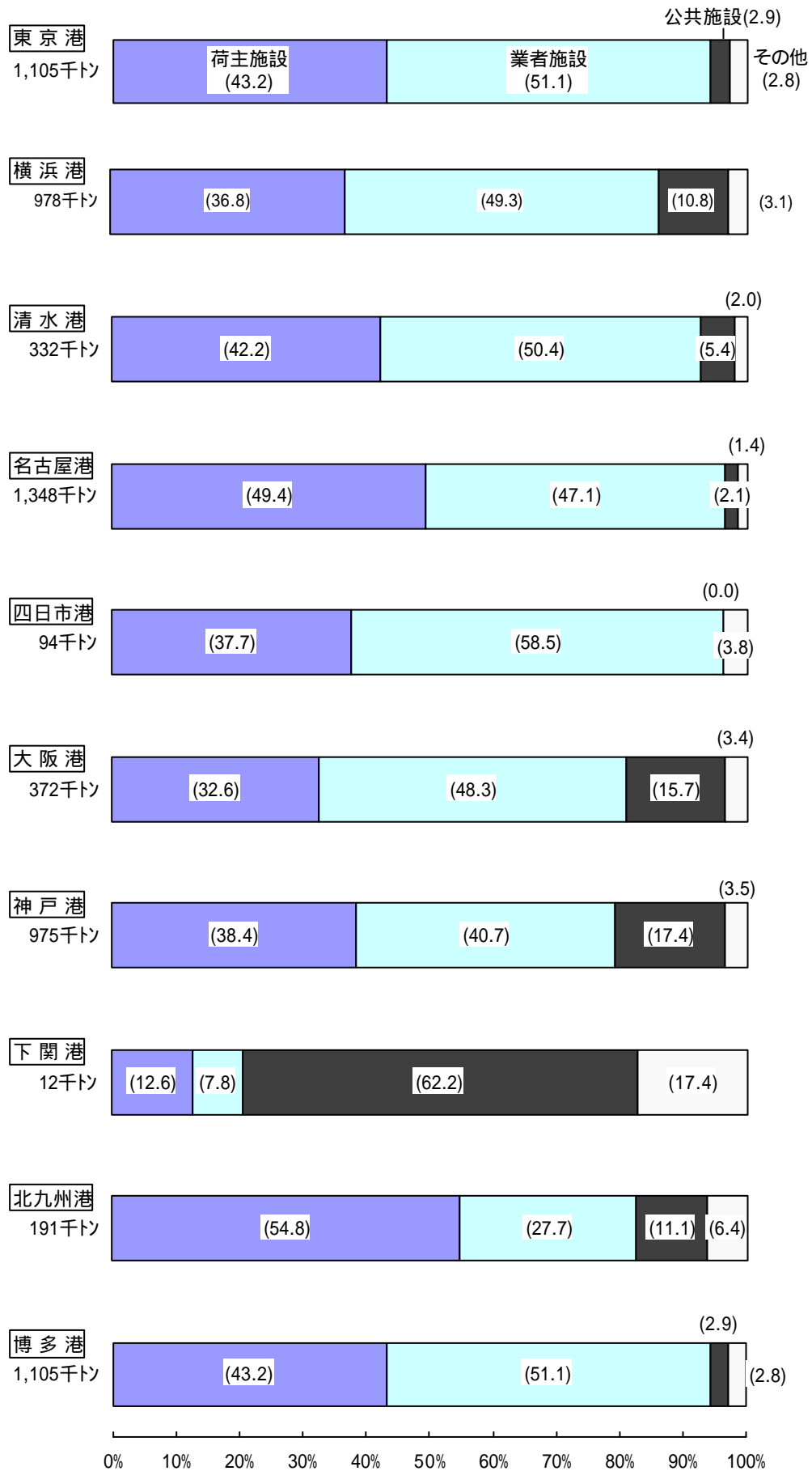


注：平成10年調査の施設区分「コンテナターミナル内」は公共施設に含む。

#### 【詰め・取出施設の区分】

区分	該当施設例
荷主施設	工場、荷主の自家倉庫、物流センター
業者施設	物流業者所有の上屋、倉庫
公共施設	公共上屋、公共倉庫、公共野積場、岸壁・エプロン
その他施設	船社CFS、第3セクター施設、インランドデポ

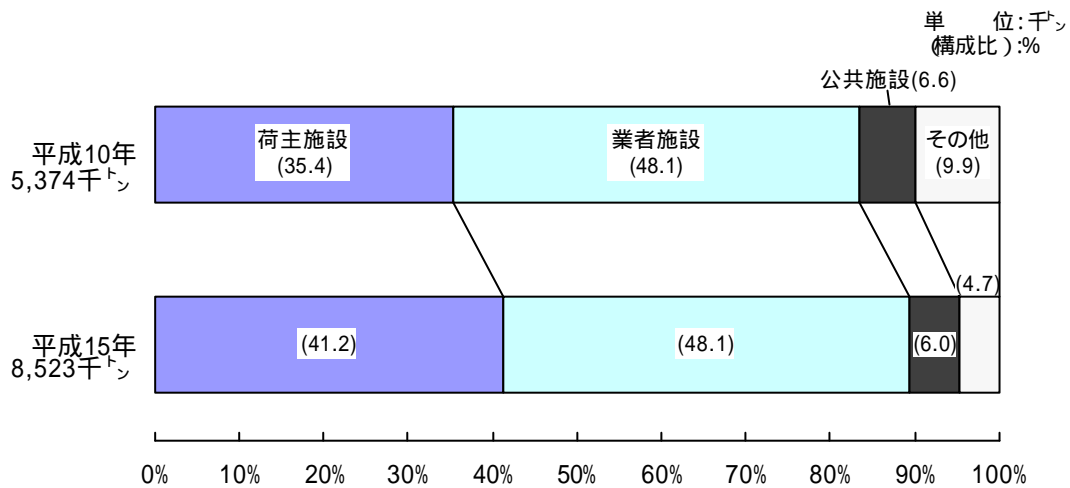
図 1 8 港湾別にみた施設別コンテナ貨物量割合（輸出）



1 1 - 2 . コンテナから取り出す施設（輸入）

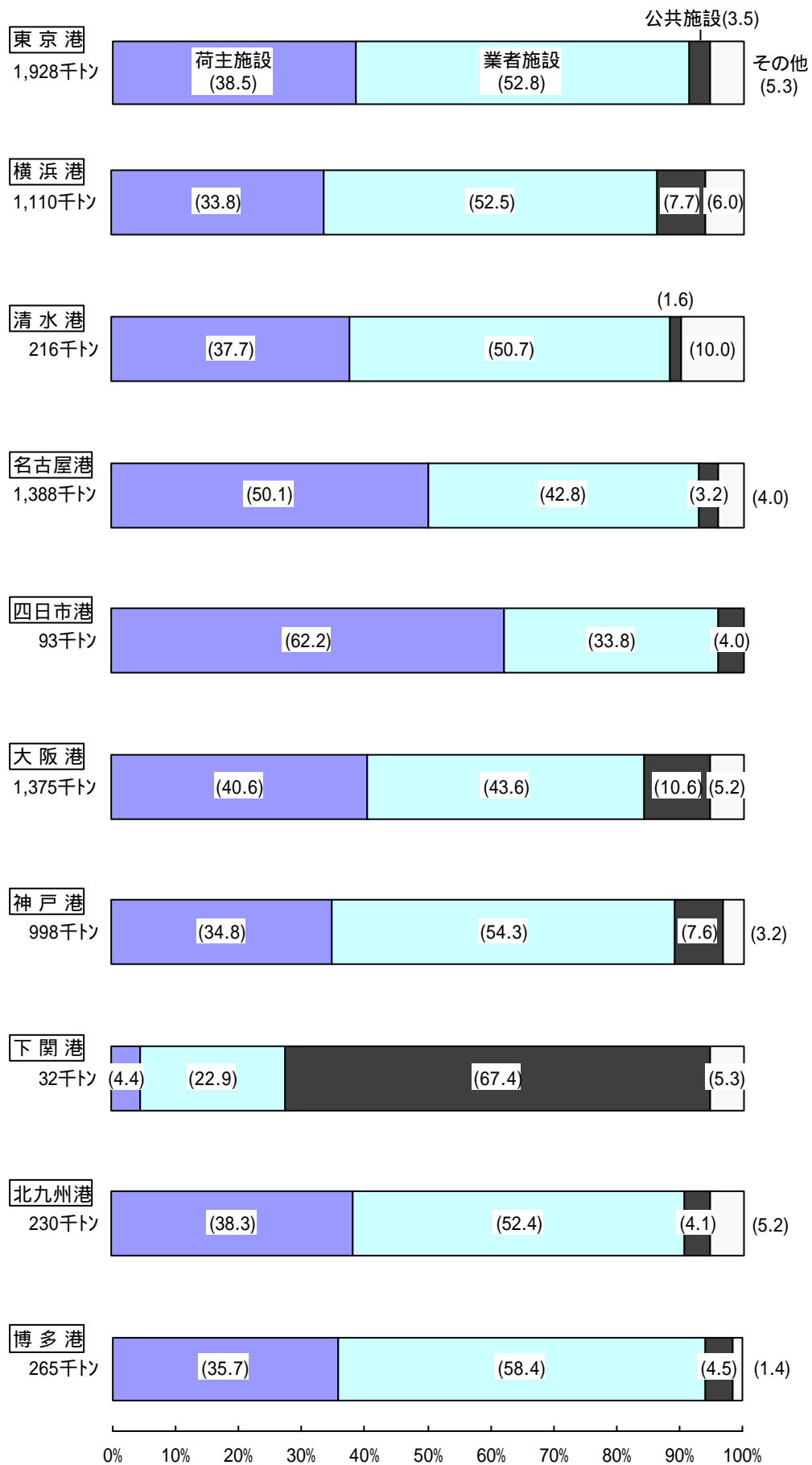
- ・コンテナ取出(デバンニング)施設の比率は、業者施設(48.1%)、荷主施設(41.2%)、公共施設(6.0%)、その他施設(4.7%)の順。
- ・前回調査と比較すると、輸出と同様に荷主施設の比率が拡大。
- ・主要船卸港別にみると、荷主施設の利用割合が高いのは四日市港(62.2%)、名古屋港(50.1%)、業者施設は博多港(58.4%)、公共施設は下関港(67.4%)など。
- ・コンテナ取出施設について温度調節機能をみると、「冷凍・冷蔵倉庫」利用が8.2%、「恒温倉庫」利用が11.2%であり、前回調査と比べ「恒温倉庫」の比率が3.4ポイント拡大。

図 1 9 施設別コンテナ貨物量割合（輸入）



注：平成10年調査の施設区分「コンテナターミナル内」は公共施設に含む。

図 2 0 港湾別にみた施設別コンテナ貨物量割合（輸入）





## 1 2 . 港頭地区における詰め、取出の状況

### 【輸出】

- ・詰め場所(バンニング場所)が港頭地区である比率は37.9%。
- ・前回調査と比較すると、港頭地区の比率は3.1ポイント拡大。
- ・港頭地区の比率が拡大した主な船積港は、東京港、横浜港、名古屋港、神戸港。比率が低下した主な港湾は、大阪港、清水港、四日市港、北九州港、博多港。

### 【輸入】

- ・取出場所(デバンニング場所)が港頭地区である比率は23.1%。輸出よりも比率は低い。
- ・前回調査と比較すると、港頭地区の比率は1.3ポイント拡大。
- ・港頭地区の比率は拡大した主な船卸港は、横浜港、大阪港、神戸港。比率が低下した主な港湾は、東京港、清水港、四日市港、北九州港。

図 2 1 港頭地区詰め・取出比率の推移

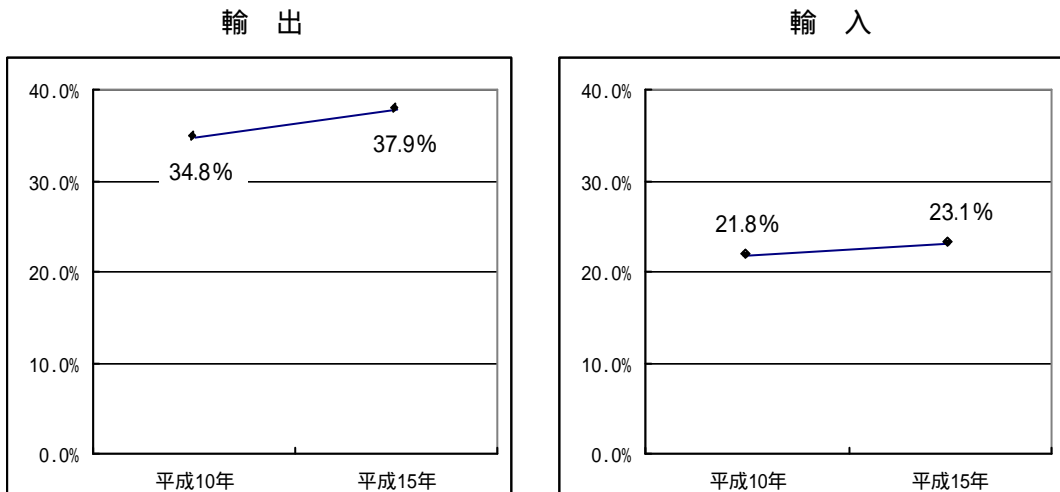


図 2 2 港頭地区詰め・取出比率の推移 (四日市港・北九州港)

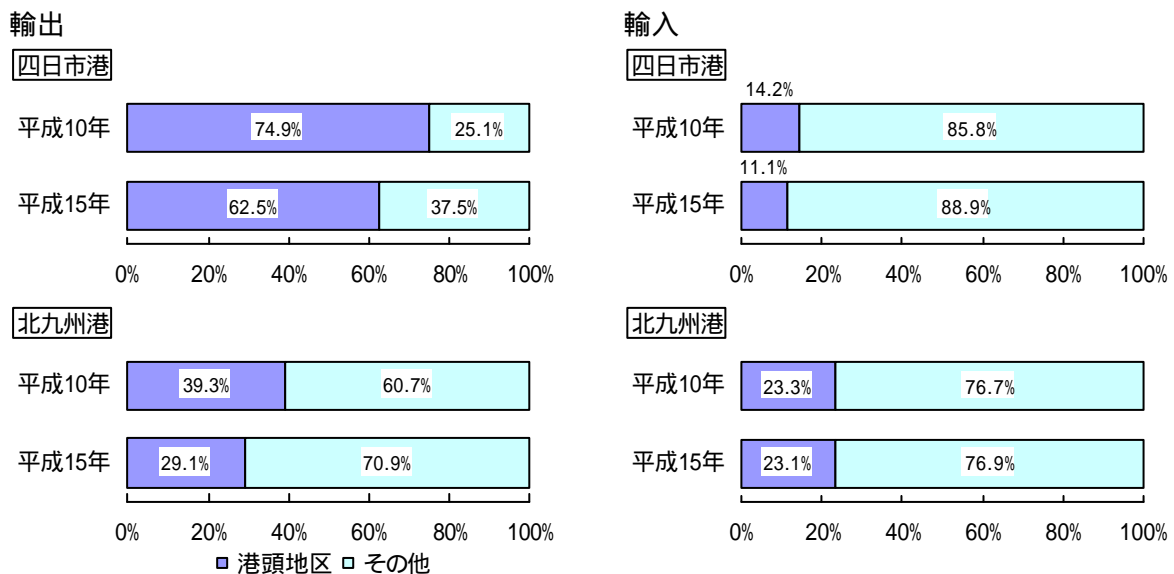


表5 港頭地区詰め・取出比率の推移

輸 出					輸 入				
船積湾	年次	港頭地区		其他地区	船卸港	年次	港頭地区		其他地区
		詰め	前回比				取出	前回比	
東京港	平成10年	22.5%	↗	77.5%	東京港	平成10年	23.4%	↘	76.6%
	平成15年	27.1%		72.9%		平成15年	23.0%		77.0%
横浜港	平成10年	24.3%	↗	75.7%	横浜港	平成10年	19.5%	↗	80.5%
	平成15年	39.8%		60.2%		平成15年	22.6%		77.4%
清水港	平成10年	39.0%	↘	61.0%	清水港	平成10年	14.9%	↘	85.1%
	平成15年	16.7%		83.3%		平成15年	7.0%		93.0%
名古屋港	平成10年	46.3%	↗	53.7%	名古屋港	平成10年	25.5%	↗	74.5%
	平成15年	51.9%		48.1%		平成15年	25.6%		74.4%
四日市港	平成10年	74.9%	↘	25.1%	四日市港	平成10年	14.2%	↘	85.8%
	平成15年	62.5%		37.5%		平成15年	11.1%		88.9%
大阪港	平成10年	36.7%	↘	63.3%	大阪港	平成10年	18.3%	↗	81.7%
	平成15年	36.2%		63.8%		平成15年	23.8%		76.2%
神戸港	平成10年	37.7%	↗	62.3%	神戸港	平成10年	23.9%	↗	76.1%
	平成15年	42.5%		57.5%		平成15年	25.9%		74.1%
下関港	平成10年	68.0%	↗	32.0%	下関港	平成10年	85.9%	↘	14.1%
	平成15年	83.4%		16.6%		平成15年	79.4%		20.6%
北九州港	平成10年	39.3%	↘	60.7%	北九州港	平成10年	23.3%	↘	76.7%
	平成15年	29.1%		70.9%		平成15年	23.1%		76.9%
博多港	平成10年	25.3%	↘	74.7%	博多港	平成10年	13.9%	→	86.1%
	平成15年	17.7%		82.3%		平成15年	13.9%		86.1%

### 1 3 . コンテナ貨物の船積、船卸状況

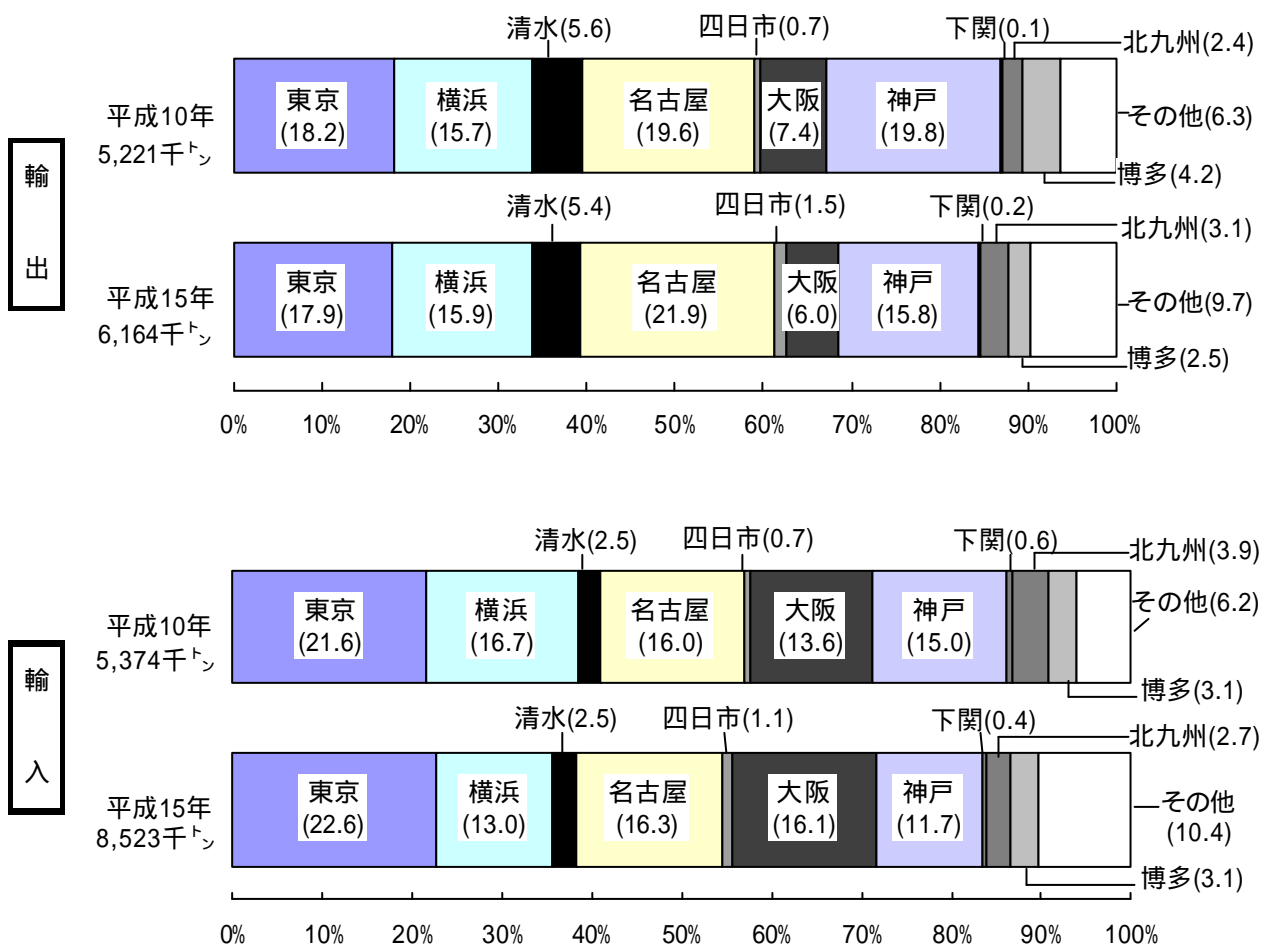
#### 【輸出】

- ・ 5大港の占める割合は77.5%（10年調査80.7%、5年調査88.8%）
- ・ 名古屋港と東京港の2港は貨物量が100万トン以上。
- ・ 名古屋港はシェアが20%を超え。神戸港はシェアが4ポイント低下。

#### 【輸入】

- ・ 5大港の占める割合は79.8%（10年調査83.0%、5年調査88.4%）
- ・ 東京港が200万トン近くに達する。
- ・ 大阪港と東京港はシェアが1ポイント以上拡大。神戸港、横浜港はシェアが3ポイント以上低下。
- ・ 輸出入ともに5大港のシェアが低下。コンテナ貨物取扱いの地方分散化が進展。
- ・ 主な港湾の輸出入バランスをみると、5大港と下関港、北九州港、博多港では入超。

図 2 3 港湾別コンテナ貨物割合



## 1 4 . 航路別にみたコンテナ貨物

### 1 4 - 1 . 輸 出

- ・航路別に貨物量割合をみると、近海航路が49.0%で最も多い。
- ・近海航路の内訳は、中国航路（29.6%）（注：香港航路を含む。）、台湾航路（10.2%）、韓国航路（9.1%）の順。
- ・シェアを前回調査と比較すると、近海航路は17.7ポイント拡大。具体的には、中国航路の貢献（10.7ポイント拡大）が大きい。近海航路のシェア拡大の内訳は、ダイレクト貨物が8.2ポイント、トランシップ貨物が9.5ポイント。
- ・前回調査時にアジア経済低迷の影響を受けた東南アジア / 太平洋航路も、1.1ポイントシェアが拡大。
- ・一方、北米航路は3航路（PSW航路、PNW航路、北米東岸航路）とも、引き続きシェアが低下傾向。
- ・港湾別シェアでは、香港（13.2%）、釜山港（8.2%）、上海港（7.6%）、高雄港（5.1%）、シンガポール港（4.3%）の順で、釜山港、上海港のシェアは4ポイント以上拡大。

図 2 4 航路別コンテナ貨物量（輸出）

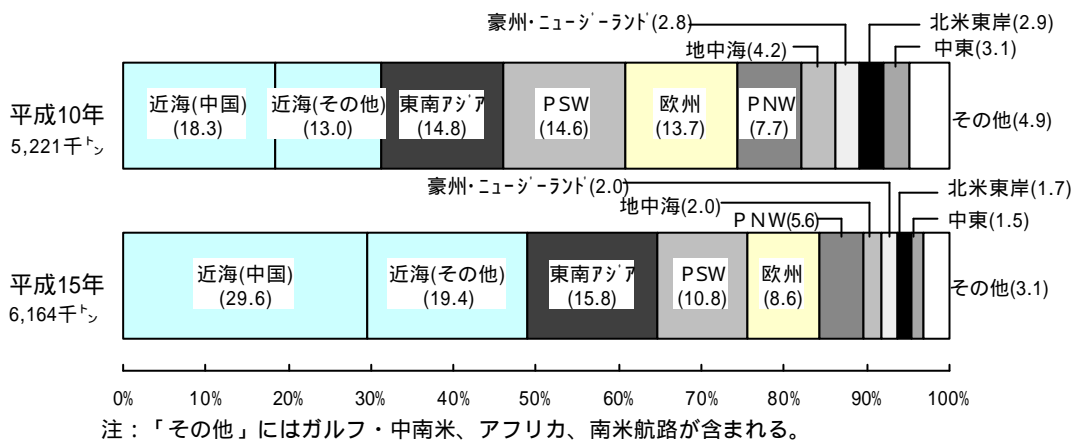
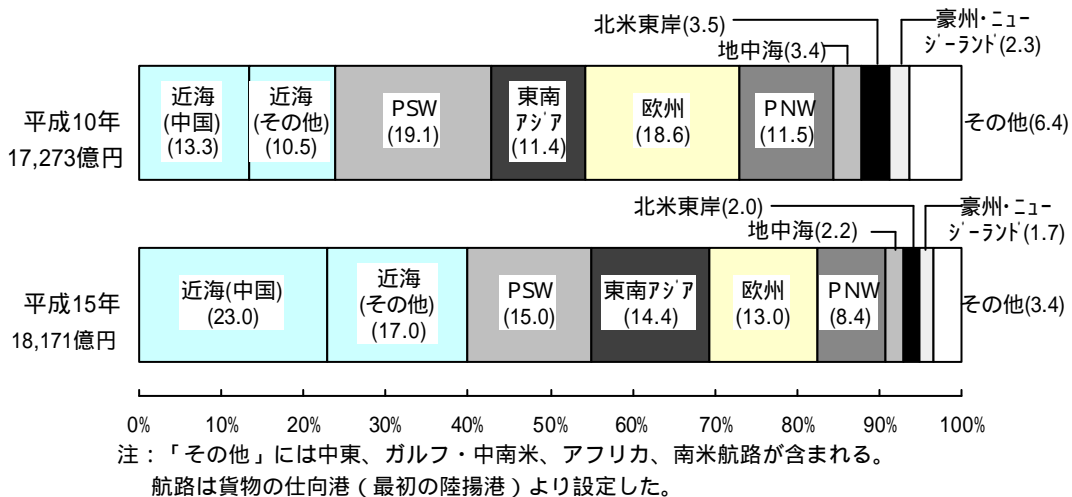


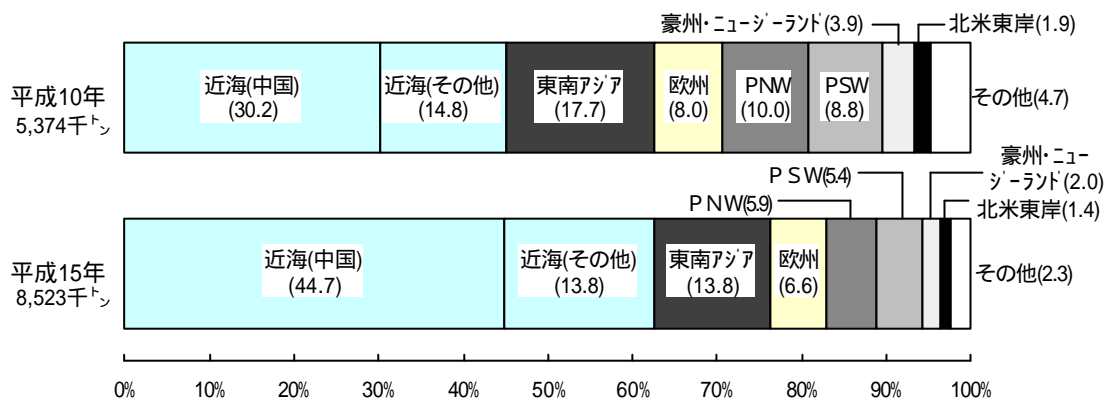
図 2 5 航路別コンテナ貨物申告価格（輸出）



## 14-2. 輸 入

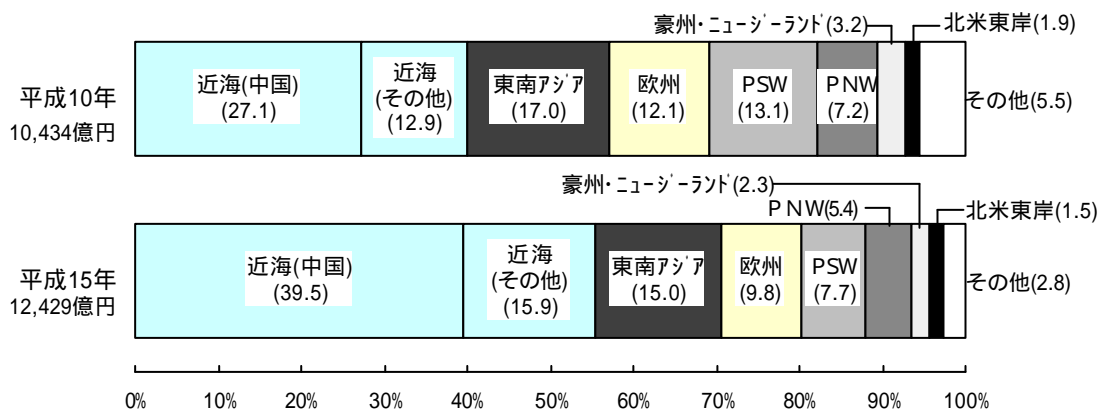
- ・航路別に貨物量割合にみると、輸出と同様に近海航路(62.6%)、東南アジア/太平洋航路(13.8%)の2航路で7割以上を占める。
- ・近海航路の内訳は、中国航路(44.7%)、韓国航路(11.5%)、台湾航路(6.3%)の順。
- ・シェアを前回調査と比較すると、近海航路は17.6ポイント拡大。具体的には、輸出と同様に、中国航路の貢献(14.5ポイント拡大)が大きい。近海航路のシェア拡大の内訳は、ダイレクト貨物が9.8ポイント、トランシップ貨物が7.8ポイント。
- ・近海航路以外のほとんどの航路は、シェアが低下。特に北米航路は、3航路(P S W航路、P N W航路、北米東岸航路)で8.0ポイント減と減少幅が大きい。
- ・港湾別シェアは、上海港(15.5%)、香港(11.4%)、釜山港(10.9%)、青島港(4.4%)、高雄港(4.0%)、大連港(3.7%)の順で、東アジア港湾が上位を独占。特に上海港は、シェアが7.7ポイント拡大。

図26 航路別コンテナ貨物量(輸入)



注: 「その他」にはガルフ・中南米、アフリカ、南米航路が含まれる。

図27 航路別コンテナ貨物申告価格(輸入)



注: 「その他」には地中海、中東、ガルフ・中南米、アフリカ、南米航路が含まれる。  
航路は貨物の最後の積出港より設定した。

- 1 5 .非直送率(日本発着のコンテナ貨物のうちアジア主要8港で積替輸送される比率)
- ・アジアの主要8港における積替貨物量は2,255千トン(輸出:936千トン、輸入1,319千トン)。前回調査と比べ約4倍(輸出4.4倍、輸入3.8倍)に増大。
  - ・非直送率は15.4%(輸出15.2%、輸入15.5%)。前回調査と比較すると、輸出入ともに約10ポイント非直送率が拡大。
  - ・港湾別では、釜山港、香港、高雄港、シンガポール港の順に非直送率が高い。

図28 日本発着のコンテナ貨物のうちアジア主要8港で積替輸送される比率の推移

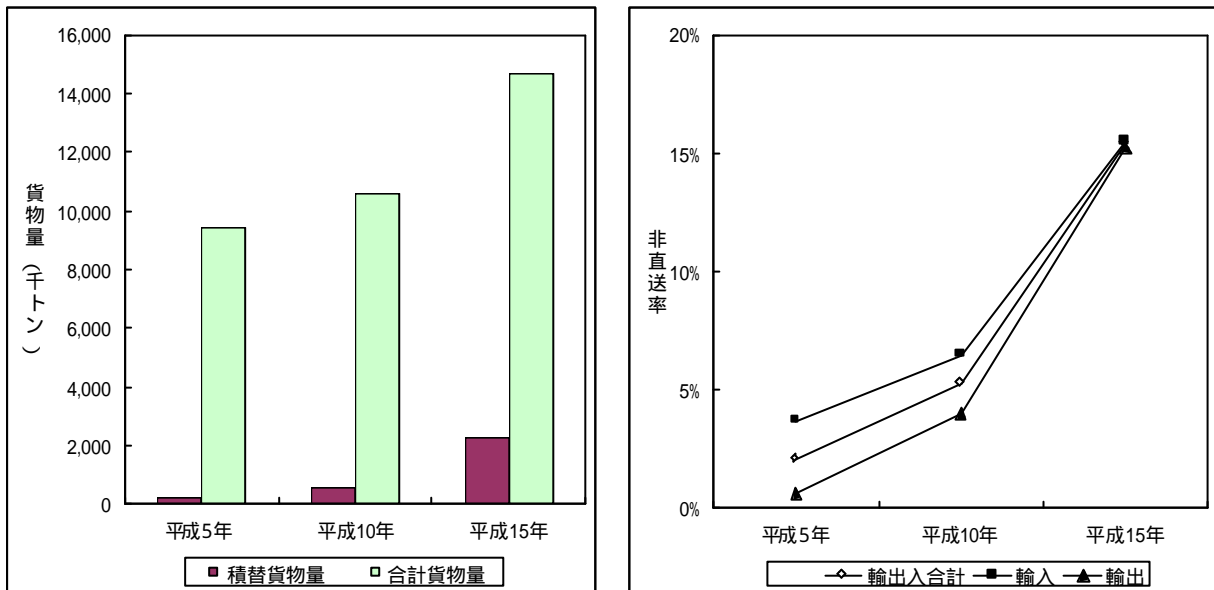


図29 積替貨物のイメージ(北米向け貨物の場合)

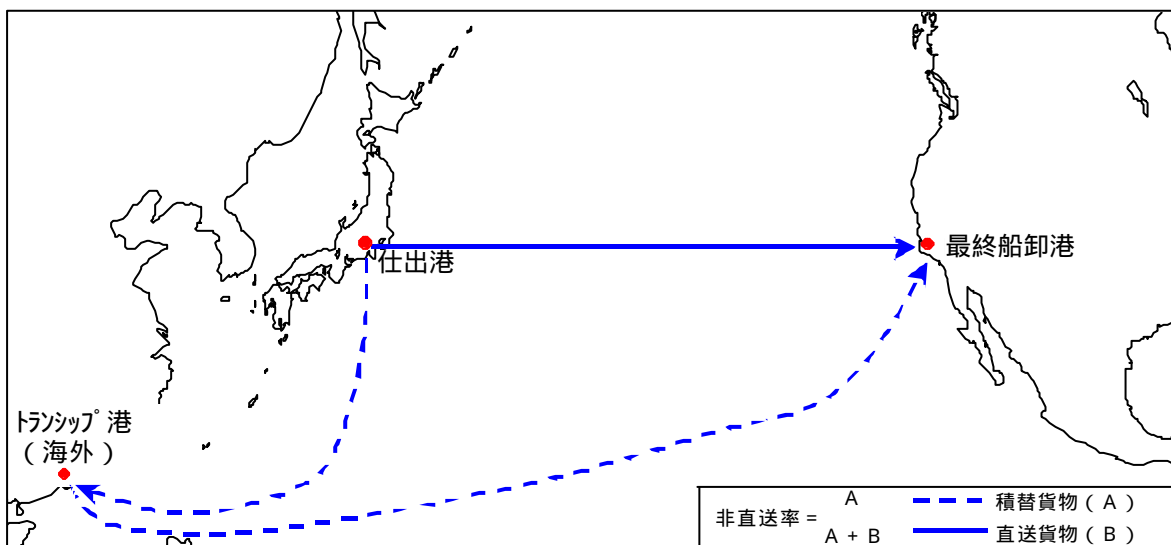


表6 アジア主要8港別積替貨物量、非直送率

【積替貨物量】

(単位：千ト)

			合計 貨物量	アジア8港における積替貨物量								
				計	釜山港	光陽港	香港	上海港	基隆港	高雄港	シンガ ポール港	タンジュン ペラバス港
合計	合計	平成5年	9,410	202	20		29	3	9	30	110	
		平成10年	10,595	563	229	0	90	4	28	62	150	
		平成15年	14,688	2,255	825	6	507	31	18	433	413	20
	輸出	平成5年	4,701	30	5		10	1	2	1	10	
		平成10年	5,221	211	77		65	0	18	7	45	
		平成15年	6,164	936	284	0	274	13	7	197	159	2
	輸入	平成5年	4,710	172	15		19	2	7	30	99	
		平成10年	5,374	351	152	0	25	4	10	55	105	
		平成15年	8,523	1,319	541	6	234	18	10	237	254	18
(例) 機械類 及び 輸送用 機器	合計	平成5年	2,958	35	3		6	1	2	3	19	
		平成10年	3,067	127	45		16	1	4	6	56	
		平成15年	4,250	537	126	0	171	9	4	106	120	2
	輸出	平成5年	2,575	16	3		5	1	1	0	7	
		平成10年	2,426	83	31		14	0	3	3	31	
		平成15年	3,006	413	87	0	144	7	3	83	86	2
	輸入	平成5年	384	19	0		1	0	1	3	13	
		平成10年	641	44	14		2	0	0	3	24	
		平成15年	1,245	125	39	0	27	2	1	22	34	0

【非直送率】

			合計	アジア8港における非直送率								
				計	釜山港	光陽港	香港	上海港	基隆港	高雄港	シンガ ポール港	タンジュン ペラバス港
合計	合計	平成5年	100.0%	2.1%	0.2%		0.3%	0.0%	0.1%	0.3%	1.2%	
		平成10年	100.0%	5.3%	2.2%	0.0%	0.8%	0.0%	0.3%	0.6%	1.4%	
		平成15年	100.0%	15.4%	5.6%	0.0%	3.5%	0.2%	0.1%	2.9%	2.8%	0.1%
	輸出	平成5年	100.0%	0.6%	0.1%		0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	
		平成10年	100.0%	4.0%	1.5%		1.2%	0.0%	0.3%	0.1%	0.9%	
		平成15年	100.0%	15.2%	4.6%	0.0%	4.4%	0.2%	0.1%	3.2%	2.6%	0.0%
	輸入	平成5年	100.0%	3.7%	0.3%		0.4%	0.0%	0.2%	0.6%	2.1%	
		平成10年	100.0%	6.5%	2.8%	0.0%	0.5%	0.1%	0.2%	1.0%	2.0%	
		平成15年	100.0%	15.5%	6.4%	0.1%	2.7%	0.2%	0.1%	2.8%	3.0%	0.2%
(例) 機械類 及び 輸送用 機器	合計	平成5年	100.0%	1.2%	0.1%		0.2%	0.0%	0.1%	0.1%	0.7%	
		平成10年	100.0%	4.1%	1.5%		0.5%	0.0%	0.1%	0.2%	1.8%	
		平成15年	100.0%	12.6%	3.0%	0.0%	4.0%	0.2%	0.1%	2.5%	2.8%	0.0%
	輸出	平成5年	100.0%	0.6%	0.1%		0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	
		平成10年	100.0%	3.4%	1.3%		0.6%	0.0%	0.1%	0.1%	1.3%	
		平成15年	100.0%	13.7%	2.9%	0.0%	4.8%	0.2%	0.1%	2.8%	2.9%	0.1%
	輸入	平成5年	100.0%	4.8%	0.1%		0.3%	0.0%	0.2%	0.9%	3.3%	
		平成10年	100.0%	6.8%	2.1%		0.3%	0.0%	0.1%	0.5%	3.8%	
		平成15年	100.0%	10.0%	3.1%	0.0%	2.2%	0.1%	0.1%	1.8%	2.7%	0.0%

注：非直送率 = 積替貨物量 / 全コンテナ貨物量

なお、香港積替貨物量に対中国分は含まない。また、上海港積替貨物量には対香港分は含まない。

表7 仕向地・仕出地別アジア主要8港別積替貨物量

(単位：千トン)

		合計 貨物量	アジア8港における積替貨物量								
			計	釜山港	光陽港	香港	上海港	基隆港	高雄港	シンガ ポール港	タンジュン ペラバス港
アジア州	合計	平成5年	5,062	167	12		22	2	8	26	98
		平成10年	5,738	360	140	0	72	3	21	34	91
		平成15年	9,753	1,466	527	4	349	7	13	308	253
	輸出	平成5年	2,466	25	3		8	1	2	1	10
		平成10年	2,474	129	41		55	0	14	3	15
		平成15年	3,748	628	194		179	3	6	149	97
	輸入	平成5年	2,596	142	9		14	1	6	26	88
		平成10年	3,264	232	99	0	17	3	6	31	76
		平成15年	6,005	838	333	4	170	4	7	160	156
北米州	合計	平成5年	2,631	12	4		3	2	0	1	2
		平成10年	2,581	44	29		4	1	2	7	2
		平成15年	2,500	234	110	2	68	14	0	30	9
	輸出	平成5年	1,369	1	0		0	0	0	0	0
		平成10年	1,422	11	9		2	0	0	0	0
		平成15年	1,242	82	30		42	6	0	2	3
	輸入	平成5年	1,262	11	4		3	1	0	1	2
		平成10年	1,159	33	20		2	1	2	7	2
		平成15年	1,258	151	80	2	26	8	0	29	6
欧州	合計	平成5年	1,172	16	4		4	0	0	3	6
		平成10年	1,536	111	46		10	1	4	14	37
		平成15年	1,624	328	105	1	43	8	1	74	91
	輸出	平成5年	638	4	2		1	0	0	0	0
		平成10年	962	53	17		6	0	3	1	26
		平成15年	782	132	29		21	4	0	37	41
	輸入	平成5年	534	13	1		3		0	3	6
		平成10年	574	57	28		4	0	1	12	11
		平成15年	842	195	76	1	22	4	1	37	50
その他 地域	合計	平成5年	546	7	1		0	0	1	0	4
		平成10年	739	47	15		3	0	1	8	20
		平成15年	810	227	83	1	47	3	4	20	61
	輸出	平成5年	228	1	0		0	0	0	0	0
		平成10年	363	18	10		2	0	1	2	3
		平成15年	392	93	31		32	1	2	9	19
	輸入	平成5年	318	6	1		0		1	0	4
		平成10年	376	29	5		1	0	1	5	16
		平成15年	418	134	52	1	15	2	3	11	41

- 注) ・北米州には、パナマ以北の中米諸国、カリブ海、西インド諸島諸国を含む。  
 ・アジア州には、中近東(トルコを除く)、ウラル山脈以南の中央アジア諸国を含む。  
 ・欧州にはロシアおよびトルコを含む。  
 ・その他地域とは南米、アフリカ、オセアニア(南太平洋諸国を含む)を指す。  
 ・なお、香港積替貨物量に对中国分は含まない。また、上海港積替貨物量には対香港分は含まない。



表8 仕向地・仕出地アジア主要8港別非直送率

		アジア主要8港における非直送率										
		合計	計	釜山港	光陽港	香港	上海港	基隆港	高雄港	シンガポール港	タンジュンペラバス港	
アジア州	合計	平成5年	100.0%	3.3%	0.2%		0.4%	0.0%	0.2%	0.5%	1.9%	
		平成10年	100.0%	6.3%	2.4%	0.0%	1.3%	0.0%	0.4%	0.6%	1.6%	
		平成15年	100.0%	15.0%	5.4%	0.0%	3.6%	0.1%	0.1%	3.2%	2.6%	0.1%
	輸出	平成5年	100.0%	1.0%	0.1%		0.3%	0.0%	0.1%	0.0%	0.4%	
		平成10年	100.0%	5.2%	1.7%		2.2%	0.0%	0.6%	0.1%	0.6%	
		平成15年	100.0%	16.8%	5.2%		4.8%	0.1%	0.2%	4.0%	2.6%	0.0%
	輸入	平成5年	100.0%	5.5%	0.3%		0.5%	0.0%	0.2%	1.0%	3.4%	
		平成10年	100.0%	7.1%	3.0%	0.0%	0.5%	0.1%	0.2%	1.0%	2.3%	
		平成15年	100.0%	14.0%	5.5%	0.1%	2.8%	0.1%	0.1%	2.7%	2.6%	0.1%
北米州	合計	平成5年	100.0%	0.4%	0.1%		0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.1%	
		平成10年	100.0%	1.7%	1.1%		0.2%	0.0%	0.1%	0.3%	0.1%	
		平成15年	100.0%	9.3%	4.4%	0.1%	2.7%	0.5%	0.0%	1.2%	0.3%	0.0%
	輸出	平成5年	100.0%	0.1%	0.0%		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
		平成10年	100.0%	0.8%	0.6%		0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
		平成15年	100.0%	6.6%	2.4%		3.4%	0.5%	0.0%	0.1%	0.2%	0.0%
	輸入	平成5年	100.0%	0.8%	0.3%		0.2%	0.1%	0.0%	0.1%	0.1%	
		平成10年	100.0%	2.9%	1.7%		0.2%	0.1%	0.2%	0.6%	0.2%	
		平成15年	100.0%	12.0%	6.4%	0.1%	2.1%	0.6%	0.0%	2.3%	0.5%	0.1%
欧州	合計	平成5年	100.0%	1.4%	0.3%		0.3%	0.0%	0.0%	0.2%	0.5%	
		平成10年	100.0%	7.2%	3.0%		0.7%	0.0%	0.2%	0.9%	2.4%	
		平成15年	100.0%	20.2%	6.5%	0.0%	2.6%	0.5%	0.0%	4.6%	5.6%	0.3%
	輸出	平成5年	100.0%	0.6%	0.3%		0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
		平成10年	100.0%	5.6%	1.8%		0.6%	0.0%	0.3%	0.1%	2.7%	
		平成15年	100.0%	16.9%	3.7%		2.7%	0.5%	0.0%	4.8%	5.2%	
	輸入	平成5年	100.0%	2.4%	0.3%		0.5%		0.0%	0.5%	1.0%	
		平成10年	100.0%	10.0%	5.0%		0.7%	0.1%	0.2%	2.2%	1.9%	
		平成15年	100.0%	23.2%	9.0%	0.1%	2.6%	0.5%	0.1%	4.4%	6.0%	0.6%
その他地域	合計	平成5年	100.0%	1.3%	0.2%		0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.8%	
		平成10年	100.0%	6.4%	2.0%		0.5%	0.1%	0.2%	1.0%	2.7%	
		平成15年	100.0%	28.0%	10.3%	0.1%	5.8%	0.3%	0.5%	2.5%	7.5%	1.1%
	輸出	平成5年	100.0%	0.3%	0.1%		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	
		平成10年	100.0%	5.0%	2.8%		0.6%	0.0%	0.2%	0.7%	0.9%	
		平成15年	100.0%	23.8%	7.9%		8.1%	0.2%	0.4%	2.2%	4.9%	
	輸入	平成5年	100.0%	2.0%	0.3%		0.0%		0.3%	0.0%	1.3%	
		平成10年	100.0%	7.7%	1.2%		0.4%	0.1%	0.2%	1.3%	4.4%	
		平成15年	100.0%	32.1%	12.5%	0.1%	3.7%	0.4%	0.6%	2.7%	9.9%	2.1%

注)・非直送率=積替貨物量/全コンテナ貨物量

- ・北米州には、パナマ以北の中米諸国、カリブ海、西インド諸島諸国を含む。
- ・アジア州には、中近東(トルコを除く)、ウラル山脈以南の中央アジア諸国を含む。
- ・欧州にはロシアおよびトルコを含む。
- ・その他地域とは南米、アフリカ、オセアニア(南太平洋諸国を含む)を指す。
- ・なお、香港積替貨物量に対中国分は含まない。また、上海港積替貨物量には対香港分は含まない。

表9 アジア主要8港別仕向地・仕出地別直送・積替貨物量(1)

(単位：千トン)

				合計	直送 貨物量	積替貨物量				
						(計)	アジア州	北米州	欧州	その他 地域
韓国 (釜山港・光陽港)	合計	平成5年	貨物量	542	522	20	12	4	4	1
			シェア	100.0%	96.3%	3.7%	2.1%	0.7%	0.7%	0.2%
		平成10年	貨物量	665	436	229	140	29	46	15
			シェア	100.0%	65.6%	34.4%	21.0%	4.3%	6.9%	2.2%
		平成15年	貨物量	1,457	625	832	531	112	105	84
			シェア	100.0%	42.9%	57.1%	36.4%	7.7%	7.2%	5.8%
	輸出	平成5年	貨物量	185	179	5	3	0	2	0
			シェア	100.0%	97.2%	2.8%	1.5%	0.1%	1.1%	0.1%
		平成10年	貨物量	222	145	77	41	9	17	10
			シェア	100.0%	65.3%	34.7%	18.5%	3.9%	7.9%	4.5%
		平成15年	貨物量	513	229	284	194	30	29	31
			シェア	100.0%	44.6%	55.4%	37.9%	5.8%	5.6%	6.1%
	輸入	平成5年	貨物量	358	343	15	9	4	1	1
			シェア	100.0%	95.8%	4.2%	2.5%	1.0%	0.4%	0.3%
		平成10年	貨物量	443	291	152	99	20	28	5
シェア			100.0%	65.7%	34.3%	22.3%	4.5%	6.4%	1.0%	
平成15年		貨物量	944	397	548	337	82	76	53	
		シェア	100.0%	42.0%	58.0%	35.6%	8.7%	8.1%	5.6%	
中国 (香港)	合計	平成5年	貨物量	838	809	29	22	3	4	0
			シェア	100.0%	96.5%	3.5%	2.6%	0.4%	0.4%	0.0%
		平成10年	貨物量	1,016	926	90	72	4	10	3
			シェア	100.0%	91.2%	8.8%	7.1%	0.4%	1.0%	0.3%
		平成15年	貨物量	1,786	1,279	507	349	68	43	47
			シェア	100.0%	71.6%	28.4%	19.5%	3.8%	2.4%	2.6%
	輸出	平成5年	貨物量	491	481	10	8	0	1	0
			シェア	100.0%	98.0%	2.0%	1.7%	0.0%	0.2%	0.0%
		平成10年	貨物量	562	498	65	55	2	6	2
			シェア	100.0%	88.5%	11.5%	9.8%	0.3%	1.1%	0.4%
		平成15年	貨物量	812	538	274	179	42	21	32
			シェア	100.0%	66.3%	33.7%	22.0%	5.2%	2.6%	3.9%
	輸入	平成5年	貨物量	348	329	19	14	3	3	0
			シェア	100.0%	94.4%	5.6%	4.0%	0.8%	0.7%	0.0%
		平成10年	貨物量	454	429	25	17	2	4	1
シェア			100.0%	94.5%	5.5%	3.8%	0.5%	0.9%	0.3%	
平成15年		貨物量	974	741	234	170	26	22	15	
		シェア	100.0%	76.0%	24.0%	17.5%	2.7%	2.2%	1.6%	
中国 (上海港)	合計	平成5年	貨物量	341	337	3	2	2	0	0
			シェア	100.0%	99.0%	1.0%	0.5%	0.5%	0.0%	0.0%
		平成10年	貨物量	567	563	4	3	1	1	0
			シェア	100.0%	99.2%	0.8%	0.5%	0.1%	0.1%	0.1%
		平成15年	貨物量	1,790	1,759	31	7	14	8	3
			シェア	100.0%	98.3%	1.7%	0.4%	0.8%	0.5%	0.1%
	輸出	平成5年	貨物量	96	95	1	1	0	0	0
			シェア	100.0%	98.5%	1.5%	1.1%	0.3%	0.0%	0.0%
		平成10年	貨物量	145	145	0	0	0	0	0
			シェア	100.0%	99.7%	0.3%	0.1%	0.1%	0.2%	0.0%
		平成15年	貨物量	469	455	13	3	6	4	1
			シェア	100.0%	97.2%	2.8%	0.6%	1.2%	0.8%	0.2%
	輸入	平成5年	貨物量	245	243	2	1	1		
			シェア	100.0%	99.2%	0.8%	0.2%	0.6%		
		平成10年	貨物量	422	418	4	3	1	0	0
シェア			100.0%	99.1%	0.9%	0.6%	0.2%	0.1%	0.1%	
平成15年		貨物量	1,322	1,304	18	4	8	4	2	
		シェア	100.0%	98.6%	1.4%	0.3%	0.6%	0.3%	0.1%	

(注) 直送貨物量：対自国分貨物量(釜山港,光陽港 韓国,上海港 香港,中国)

表9 アジア主要8港別仕向地・仕出地別直送・積替貨物量(2)

(単位:千トン)

				合計	直送 貨物量	(計)	積替貨物量			
							アジア州	北米州	欧州	その他 地域
台湾 (高雄港・基隆港)	合計	平成5年	貨物量	726	686	40	34	1	3	1
			シェア	100.0%	94.5%	5.5%	4.7%	0.2%	0.4%	0.2%
		平成10年	貨物量	651	561	90	55	9	17	9
			シェア	100.0%	86.2%	13.8%	8.4%	1.4%	2.7%	1.4%
		平成15年	貨物量	1,021	570	451	321	31	75	24
			シェア	100.0%	55.8%	44.2%	31.5%	3.0%	7.4%	2.4%
	輸出	平成5年	貨物量	399	396	3	3	0	0	0
			シェア	100.0%	99.2%	0.8%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%
		平成10年	貨物量	372	347	24	17	0	4	3
			シェア	100.0%	93.4%	6.6%	4.6%	0.1%	1.0%	0.8%
		平成15年	貨物量	562	358	204	155	2	37	10
			シェア	100.0%	63.7%	36.3%	27.5%	0.3%	6.6%	1.8%
輸入	平成5年	貨物量	327	290	37	31	1	3	1	
		シェア	100.0%	88.8%	11.2%	9.5%	0.3%	0.9%	0.4%	
	平成10年	貨物量	279	213	65	37	8	14	6	
		シェア	100.0%	76.5%	23.5%	13.4%	3.0%	4.9%	2.1%	
	平成15年	貨物量	458	211	247	167	29	38	14	
		シェア	100.0%	46.1%	53.9%	36.3%	6.3%	8.2%	3.0%	
シンガポール ・マレーシア (シンガポール港・ クアラルンプール港)	合計	平成5年	貨物量	388	279	110	98	2	6	4
			シェア	100.0%	71.8%	28.2%	25.1%	0.5%	1.5%	1.1%
		平成10年	貨物量	331	181	150	91	2	37	20
			シェア	100.0%	54.7%	45.3%	27.6%	0.6%	11.2%	6.0%
		平成15年	貨物量	592	158	433	259	10	96	69
			シェア	100.0%	26.8%	73.2%	43.7%	1.6%	16.2%	11.7%
	輸出	平成5年	貨物量	223	213	10	10	0	0	0
			シェア	100.0%	95.4%	4.6%	4.3%	0.1%	0.1%	0.1%
		平成10年	貨物量	175	130	45	15	0	26	3
			シェア	100.0%	74.5%	25.5%	8.8%	0.0%	14.8%	1.8%
		平成15年	貨物量	273	112	161	98	3	41	19
			シェア	100.0%	40.9%	59.1%	36.0%	1.1%	15.0%	7.0%
	輸入	平成5年	貨物量	165	66	99	88	2	6	4
			シェア	100.0%	39.9%	60.1%	53.2%	1.0%	3.4%	2.5%
		平成10年	貨物量	156	51	105	76	2	11	16
			シェア	100.0%	32.5%	67.5%	48.6%	1.2%	7.2%	10.6%
		平成15年	貨物量	319	47	272	160	7	55	50
			シェア	100.0%	14.6%	85.4%	50.3%	2.1%	17.3%	15.7%

注)直送貨物量:対自国分貨物量(高雄港・基隆港 台湾、シンガポール港 シンガポール、クアラルンプール港 マレーシア)

表 10 港湾別にみた直送貨物量・積替貨物量・非直送率

(単位：千ト)

船積港 ・ 船卸港	年次	合 計											
		合計	直送 貨物量	8 港計		積替貨物量							
				積替 貨物量	非直送率	釜山港	光陽港	香港	上海港	基隆港	高雄港	シンガ ポール港	タンジュン ペラバス港
中 枢 国 際 港 湾	平成10年	9,580	9,308	273	2.8%	57	0	34	4	12	46	119	
	平成15年	12,702	11,234	1,468	11.6%	288	0	468	31	9	302	351	20
そ の 他 港 湾	平成10年	1,014	725	290	28.6%	172		55	0	15	16	31	
	平成15年	1,986	1,199	787	39.6%	537	6	39	1	9	131	63	0
合 計	平成10年	10,595	10,032	563	5.3%	229	0	90	4	28	62	150	
	平成15年	14,688	12,433	2,255	15.4%	825	6	507	31	18	433	413	20

船積港	年次	輸 出											
		合計	直送 貨物量	8 港計		積替貨物量							
				積替 貨物量	非直送率	釜山港	光陽港	香港	上海港	基隆港	高雄港	シンガ ポール港	タンジュン ペラバス港
中 枢 国 際 港 湾	平成10年	4,644	4,570	74	1.6%	18		23	0	8	3	20	
	平成15年	5,260	4,591	669	12.7%	128	0	247	13	4	143	132	2
そ の 他 港 湾	平成10年	577	440	137	23.8%	58		42		9	3	24	
	平成15年	905	638	267	29.5%	156		27	0	3	54	27	
合 計	平成10年	5,221	5,009	211	4.0%	77		65	0	18	7	45	
	平成15年	6,164	5,228	936	15.2%	284	0	274	13	7	197	159	2

船卸港	年次	輸 入											
		合計	直送 貨物量	8 港計		積替貨物量							
				積替 貨物量	非直送率	釜山港	光陽港	香港	上海港	基隆港	高雄港	シンガ ポール港	タンジュン ペラバス港
中 枢 国 際 港 湾	平成10年	4,937	4,738	199	4.0%	38	0	12	4	4	43	99	
	平成15年	7,442	6,643	799	10.7%	160	0	221	18	4	160	219	18
そ の 他 港 湾	平成10年	437	285	152	34.8%	114		13	0	6	13	7	
	平成15年	1,081	562	519	48.0%	382	6	12	1	6	77	36	0
合 計	平成10年	5,374	5,023	351	6.5%	152	0	25	4	10	55	105	
	平成15年	8,523	7,205	1,319	15.5%	541	6	234	18	10	237	254	18

## 参考１．コンテナ貨物の仕向地、仕出地

### (１) 仕向地(輸出)

- ・仕向地を州別にみるとアジア州(60.8%)、北アメリカ州(20.2%)、ヨーロッパ州(12.7%)の順。
- ・前回調査と比較すると、前回調査時アジア経済低迷の影響を受けたアジア州は、13.4ポイント増と大幅にシェアが拡大。一方、北アメリカ州は、引き続きシェアが低下傾向。
- ・国別にみると、中国(20.3%)、アメリカ(17.6%)、台湾(6.9%)、香港(6.2%)、タイ(5.7%)の順に貨物量が多く、中国がアメリカを抜いてシェア１位。
- ・アジア州では、中国のシェアが倍増。前回シェアが低下したタイ、マレーシアなどの東南アジア諸国や韓国もシェアが拡大。一方、アメリカはシェアが6.1ポイント減。
- ・トン当たりの申告価格を州別にみると、北アメリカ州は40.8万円(前回調査43.9万円)、ヨーロッパ州は39.8万円(同40.8万円)、アジア州は24.5万円(同25.1万円)。
- ・アジア州のトン当たりの申告価格は、北アメリカ州やヨーロッパ州を大幅に下回る。

図30 仕向地別コンテナ貨物量（輸出）

単位：千トン  
（構成比）：%

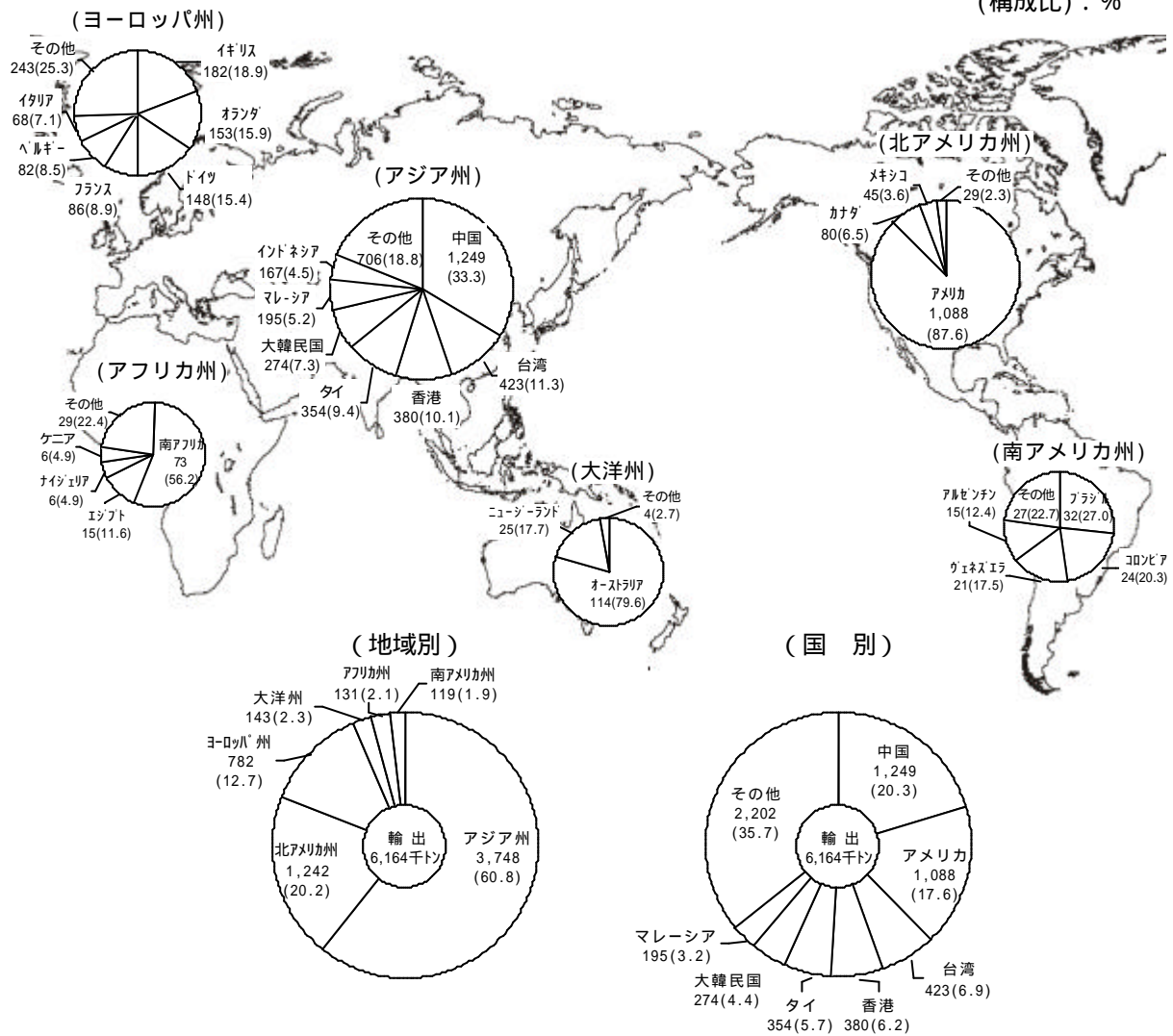


表11 仕向地域別にみた申告価格の捕捉率

単位：百万円

仕向国	コンテナ調査 金額(A)	貿易統計 金額(B)	捕捉率 (A / B)	仕向州	コンテナ調査 金額(A)	貿易統計 金額(B)	捕捉率 (A / B)
中国	371,779	441,621	84.2%	アジア州	916,460	1,063,711	86.2%
(うち香港)	104,064	124,058	83.9%	北アメリカ州	506,422	581,219	87.1%
アメリカ	453,068	512,508	88.4%	ヨーロッパ州	311,172	356,243	87.3%
台湾	136,274	164,643	82.8%	その他	83,009	109,854	75.6%
タイ	90,777	103,085	88.1%	合計	1,817,063	2,111,027	86.1%
韓国	94,524	110,849	85.3%				
その他	670,641	778,321	86.2%				
合計	1,817,063	2,111,027	86.1%				

## (2) 仕出地(輸 入)

- ・ 仕出地(原産国)を州別にみると、アジア州(70.5%)、北アメリカ州(14.8%)、ヨーロッパ州(9.9%)の順。
- ・ 前回調査と比較すると、アジア州は輸出と同様に、約10ポイントシェアが拡大。一方、北アメリカ州、ヨーロッパ州、各々6.8ポイント、0.8ポイントシェアが低下し、とりわけ北アメリカ州のシェア低下が顕著。
- ・ 国別では、中国(44.2%)、アメリカ(11.3%)、タイ(6.3%)、韓国(5.1%)、インドネシア(4.2%)の順。
- ・ アジア州では、中国のシェアが13.5ポイント増と大幅に拡大し中国の躍進が目立つ。
- ・ アメリカは、6.0ポイントシェアが低下。5年調査と比べシェアは半減。
- ・ トン当たりの申告価格を州別にみると、ヨーロッパ州が20.1万円(前回調査28.6万円)、北アメリカ州が16.5万円(同20.7万円)、アジア州が13.3万円(同17.6万円)。
- ・ 前回調査と比較すると、主要3州はいずれもトン当たりの申告価格が低下。

図3 1 仕出地別コンテナ貨物量（輸入）

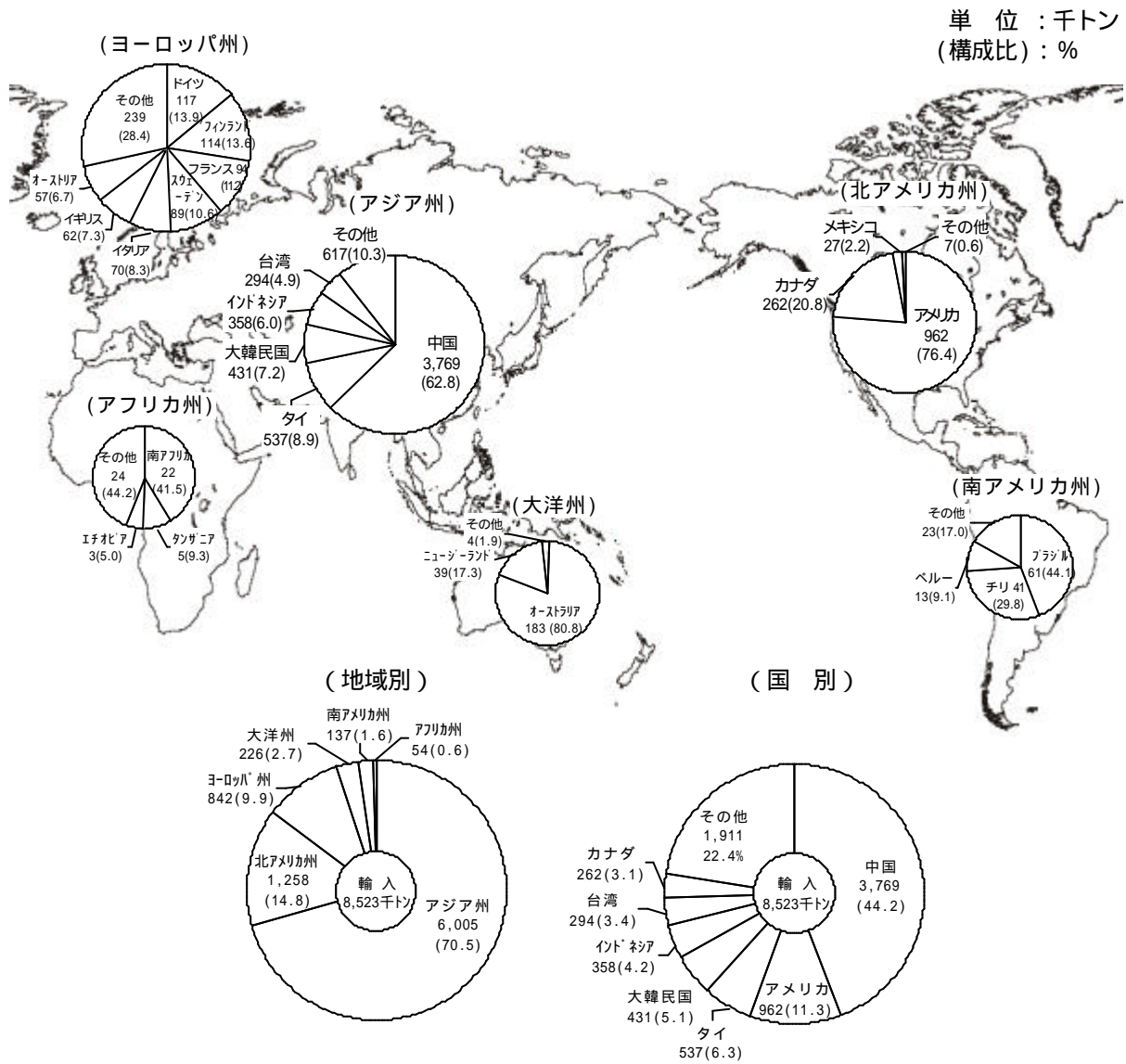


表 1 2 仕出地域別にみた申告価格の捕捉率

単位：百万円

仕出国	コンテナ調査 金額(A)	貿易統計 金額(B)	捕捉率 (A / B)	仕出州	コンテナ調査 金額(A)	貿易統計 金額(B)	捕捉率 (A / B)
中 国	476,865	601,948	79.2%	ア ジ ア 州	797,302	1,004,329	79.4%
(うち香港)	2,981	4,123	72.3%	北アメリカ州	207,373	252,172	82.2%
アメリカ	173,479	207,256	83.7%	ヨーロッパ州	169,563	221,174	76.7%
タ イ	71,742	85,913	83.5%	そ の 他	68,673	81,741	84.0%
韓 国	68,210	85,691	79.6%	合 計	1,242,911	1,559,416	79.7%
インドネシア	45,365	53,008	85.6%				
そ の 他	407,250	525,600	77.5%				
合 計	1,242,911	1,559,416	79.7%				



## 参考2 . 品目別にみたコンテナ貨物

### (1) 輸出

・品目(大分類)別にみると、機械類及び輸送用機器類が48.8%を占め、以下、ゴム製品や紙製品などの原料別製品(19.5%)、化学製品(17.6%)の順。

・個別品目で貨物量が多いのは以下の通り。

機械類及び輸送用機器類：自動車の部分品(12.1%)、自動車(6.5%)、原動機(5.2%)

原料別製品：ゴムタイヤ及びチューブ(6.1%)、紙類及び同製品(2.8%)、鉄鋼(2.7%)

化学製品：プラスチック(10.5%)、有機化合物(3.6%)

・輸出申告価格では、機械類及び輸送用機器類が67.2%を占め、以下、原料別製品(11.4%)、化学製品(10.9%)の順。貨物量に比べ、機械類及び輸送用機器類の比率が高い。

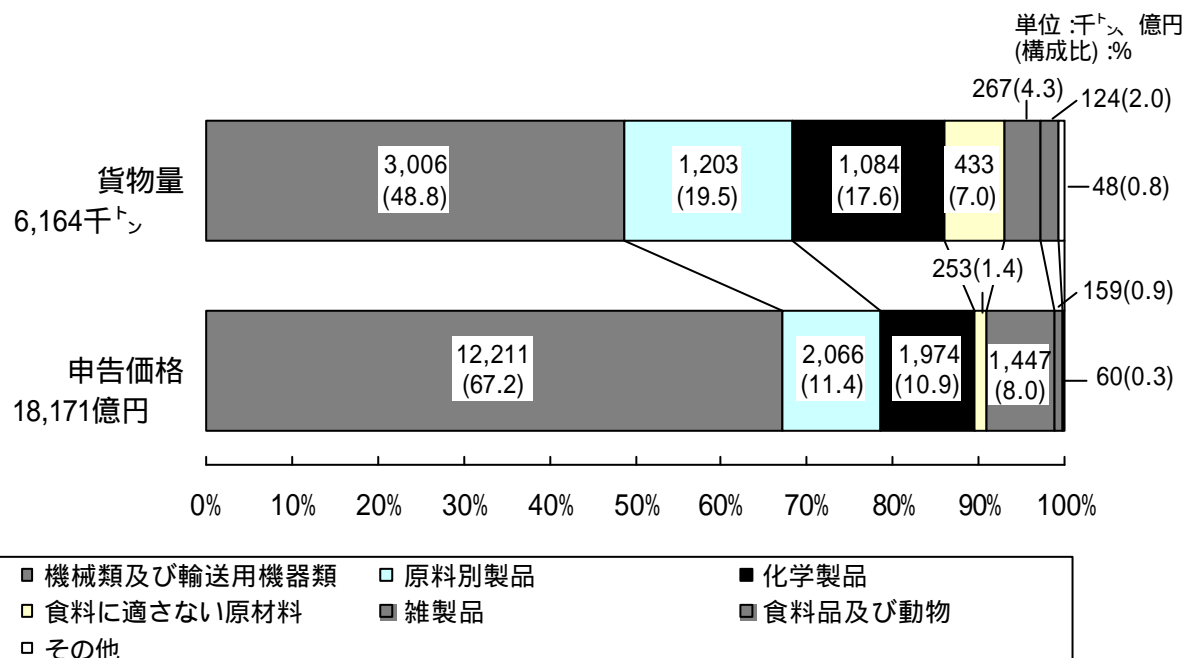
・トン当たり申告価格は以下の通り(全品目平均29.5万円)

雑製品(54.1万円)                      機械類及び輸送用機器類(40.6万円)、

化学製品(18.2万円)                      原料別製品(17.2万円)、

食料品及び動物(12.8万円)      食料に適さない原材料(5.9万円)

図32 品目別コンテナ貨物量、申告価格(輸出)



(2) 輸 入

・品目(大分類)別にみると、衣類・家具などの雑製品が25.2%を占め、以下、原料別製品(25.2%)、食料品及び動物(18.3%)、機械類及び輸送用機器(14.6%)の順。

・個別品目で貨物量が多いのは以下の通り。

雑製品 : 衣類及び同付属品(7.8%)、家具(6.7%)、プラスチック製品(2.9%)

原料別製品 : 繊維用糸及び繊維製品(4.0%)、非金属鉱物製品(3.9%)

食料品及び動物 : 果実及び野菜(5.0%)、飼料(4.9%)

機械類及び輸送用機器 : 電気機器(7.2%)

・輸入申告価格では、機械類及び輸送用機器(24.0%)、雑製品(23.4%)、食料品及び動物(18.6%)の順。貨物量に比べると、輸出と同様に機械類及び輸送用機器の比率が高い。

・トン当たり申告価格は以下の通り(全品目平均14.6万円)。

機械類及び輸送用機器(24.0万円) 化学製品(17.4万円)

食料品及び動物(14.9万円) 雑製品(13.5万円)

原料別製品(9.9万円) 食料に適さない原材料(8.0万円)

図 3 3 品目別コンテナ貨物量、申告価格(輸入)

